

6月情報連絡票

神奈川県中小企業団体中央会

令和 年 月 日提出

情報連絡員氏名		所属組合名	
1. 今月の貴組合の組合員全体の状況をもとにお答え下さい。(該当するものに印を付けて下さい)			
項目名	前年同月比		
売上高	増加	不変	減少
在庫数量	増加	不変	減少
販売価格	上昇	不変	低下
取引条件	好転	不変	悪化
収益状況	好転	不変	悪化
資金繰り	好転	不変	悪化
設備操業度	上昇	不変	低下
雇用人員 (臨時・パートを含む)	増加	不変	減少
業界の景況	好転	不変	悪化
2. 景況に特に変化が生じた場合には、その原因、現状等について詳しく記入して下さい。また現在、企業経営上 或いは、業界で特に問題となっている点がありましたら、出来る限り記入して下さい。(例えば、倒産、転廃業、新 製品、新技術、新分野、新分野進出、設備投資、海外展開、空洞化、下請へのシワ寄せ、貸し渋り、人材育成、規制 緩和、中心市街地活性化、環境・リサイクル等)			
3. 中央会・行政庁への連絡要請事項で特記すべき事があれば記入して下さい。			

- 注 1. 在庫数量は、製品・半製品・商品の在庫について記入して下さい。(製造業・商業以外は不要です)
2. 取引条件は、卸売業は販売条件、小売業は仕入条件、その他の業種は受注・販売条件とします。
(いずれも代金決済条件を含みます)
3. 設備操業度は、組合員の保有生産設備の総能力を100とした操業度です。(製造業以外は不要です)

情報連絡票記入上のご注意

1. 調査時点は、毎月末日です。
2. 原則として毎月5日までにその前月分の情報連絡票を、FAX・メール・郵送いずれかの方法にて本会までお送りください。郵送の方は誠に恐れ入りますが封筒に84円切手をお貼り下さい。
3. 情報連絡票中の「1」の欄の組合員全体の状況については、項目ごとに「増加」「不変」「減少」（または「好転」「不変」「悪化」）の選択肢がありますので、3つのうちのどれか1つを○で囲んで下さい。項目ごとに同様に行って下さい。
4. 情報連絡票中の「1」の欄の項目の中には、以下の点にご留意いただき、ご回答下さい。
 - ①在庫数量については、製造業・卸売業・小売業・商店街の場合のみ記入して下さい。（製品・半製品・商品の在庫について記入します）
 - ②取引条件については、卸売業は販売条件、小売業は仕入条件、その他の業種は受注・販売条件を記入して下さい。（いずれも代金決済条件を含みます）
 - ③設備操業度については、製造業のみ記入して下さい。（組合員の保有生産設備の総能力を100とした操業度について記入します）
 - ④雇用人員については、パート・アルバイトも含めて下さい。
 - ⑤業界の景況については、情報連絡員自身が組合の業況感を総合的に判断したものを記入して下さい。
5. 景況に特に変化が生じた場合、または企業経営上あるいは業界で特に問題となっている点がありましたら、より具体的に情報連絡票中「2」の欄に記入して下さい。また、本会・行政庁への連絡要請事項で特記すべき事項がありましたら「3」の欄にご記入下さい。
6. 協同組合等の設立の動き、または経済事業の活発な任意団体等についてご存じでしたら、その名称及び連絡先（所在地・電話番号）等を「3」の欄にご記入下さい。

なお、ご記入について、ご不明な点がございましたら、本会情報調査部まで問い合わせ下さい。

☆問い合わせ☆

神奈川県中小企業団体中央会 情報調査部 電話045-633-5134
FAX045-633-5139

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	パン	<ul style="list-style-type: none"> ・原材料高、光熱費の高止まり、人件費の上昇に伴い厳しい状況となってきている。 ・値上げをしても顧客の数を落とさず乗り切る策に苦慮している。 ・人出不足も深刻で省力化できる設備投資を検討していかないといけない。
	酒造	令和6年4月の清酒課税移出数量の特定名称酒は対前年比100.93%と上回った。内訳は吟醸酒109.96%、純米吟醸100.77%、純米酒92.62%、本醸となった。特定名称酒以外の普通酒は対前年比77.29%と下回り、合計で対前年比99.20%と前年を下回る結果となった。
	ひもの	<ul style="list-style-type: none"> ・円安が影響してかインパウンドは増加、宿泊価格は上昇が見られる一方で昨今、国民は国内宿泊を減少し日帰り観光にシフト変更しているように感じる。「時流に沿った販売・販路開拓ができれば～」と願う毎日である。 ・肝心の干物原料となる魚が十分に確保できず苦労している。この先も改善が見込めず不安である。 ・原料等高騰を価格転嫁できない状況が続いており苦労の連続である。
木材・木製品	家具	①急激な上昇は一服したとはいえ、円安の進行により原材料の値上げが収支を圧迫している。国産材(シナなど)への切り替え、ラワンからポプラ材への切り替えなど知恵を出している。②人材の確保や定着に苦慮している。③受注は底入れ感があり今後期待感がある。との声が多い。当組合では、新しい顧客開発と知名度向上を期して、組合主催展示会「第2回よこはま匠フェスティバル」開催を決定し展示会として定着化を図る。組合員の顧客ニーズ収集・連携強化を後押ししている。技能検定の受検者は、30名と多い。技術の向上意欲は高いものがある。
印刷	製本	連休の影響は小さく通常運転だった。5/10に総会を開催し、理事長を含め役員を一新した。
化学・ゴム	石油製品	組合員から、「円安進行で、原材料価格の高騰が懸念される。引き続き、利鞘確保が課題」との情報が寄せられた。
	窯業・土石製品	砕石
鉄鋼・金属	工業塗装	<ul style="list-style-type: none"> ・前年同月比ではプラスになっているが、防衛省向けの今年度の受注がまだ開始されていないので計画よりも実績は下回っている。5月からの受注増加が8月頃にスライドしている。 ・建物免震 引き続き低迷。
	工業団地	食品大手は、4月下旬にTV放送された焼き肉のたれ部門で1位となった。このためスーパー・小売店での品薄が予想されることからGW期間中も増産の為工場フル稼働となった。5月の共同受電使用量は前年同月比+2.3%となった。
	工業団地	自動車特に大型自動車については、新安全基準により販売が依然思わしくない。操業度は低迷。半導体設備メーカーは堅調。
	工業団地	事業活動は全体的に低調で企業努力でしのいでいるが見通しは厳しい。
	金属製品	<ul style="list-style-type: none"> 5月は良い兆しが見え始めてきていると思われる。 ・仕事受注量の増加傾向にある。 ・ただ持続するのには不透明感がある。 ・今後仕事受注量が増加して利益が上がれば、社員のボーナス増に期待もてる。
輸送機器	艦船製造・修理	24年の輸出の海運業の見通しは、2年連続プラス、航空は3年振りのプラスと成る見通し。海運の見通しは前年同程度で1%台半ば、航空便の伸び代も3%未満で何れも小幅な増加に成る見通し。貨物量は海運・航空共に24年もコロナ前('19)の水準に届かない見込み。
その他の製造業	工業中心の複合業種	各社ばらつきはあるが、連休後は大手の事業縮小等も影響し、受注量は減少傾向。人材確保も中小では、経験なしでの採用は厳しく、求人方法や会社のアピール方法に各社苦労している。
	工業中心の複合業種	半導体製造装置関連・自動車の需要が思うように伸びず、中国経済の先行き不透明感、ウクライナ・中東情勢などにより、設備投資・工作機械受注が減少傾向にある。人材不足や人件費高騰に対しては自動化・効率化・環境対応などの新たな需要が期待でき、賃金上昇に繋がれば景気高揚が期待される。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	菓 子 卸	<p>売上に関しては、今月あまり伸びなかったようである。 5月も製品の値上げや定額減税に伴う確認作業などによる事務作業の増加が問題になっているようである。</p>
	再 生 資 源	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄屑価格は横ばい→弱含み。 ・銅屑価格は史上最高値。
	卸 団 地	<ul style="list-style-type: none"> ・売上については、前年同月比で増加となったが、新型コロナ禍以前（4年前）と比較した場合、依然減収している状況。（一部の企業では、4年前対比増収となっている。） ・取扱商品、販売ターゲットによって、業績格差が顕著に表れている。 ・アフターコロナによる世界的な需要増とロシアのウクライナ軍事侵攻等による原油高、半導体不足、小麦等不足等によって、海外調達遅延、仕入価格上昇、物流経費増加によって、変動費が上昇し、収益悪化が表れている。 ・現時点では、材料等仕入れ価格の上昇、電気料と物流経費増加分を販売価格に一部転嫁実現できた企業もあるが、依然中小企業の大半が転嫁することが難しい状況。（売上先により格差がある） ・物価高騰の変動費上昇分を売上転嫁できるか否か、特に中小企業の事業継続のカギを握るものと思慮。
	リ サ イ ク ル	<p>【新聞古紙】 韓国・マレーシアメーカーからの需要は比較的堅調であり、タイからも需要は強い。スポットの新聞用紙の注文が各国のメーカーへ入っているとのこと。この原紙需要がどこまで続くかは不明。欧州ではパリオリピックに向けた域内の原紙需要と古紙消費が増加しており、古紙輸出量が減少している模様。先月に続き、販売ドル価、問屋店頭価格とも増加し上る気配。</p> <p>【雑誌古紙】 白板紙の需要低迷は続いているが、マレーシア・インドネシアメーカーからの古紙需要は堅調。段ボール、新聞につられて、多少の価格上昇が見られる。海上運賃の値上げやブッキング確保困難により、すでにブッキング確保している所にオファーが集まり、今後相場が下がる可能性もある。</p> <p>【段古紙】 販売ドル価に大きな変動はなく値動きがあっても小幅に留まっている。今後の相場は不透明だが、欧米品の価格も高止まりしている中、大きな下落は考えにくい。海上運賃値上げ分、販売ドル価が上がる様子は現時点では見られない。運賃分を販売に転嫁できなければ問屋店頭価格は下落、転嫁できれば横ばいとなる見込み。</p>
	機 械 器 具	<p>昨年に比べ景気の後退感が増しており、円高を基調として製品価格の値上げが進行しています。2024年問題により、配送の減便や時短と言った影響で機動力が落ちてきている。</p>
	リ サ イ ク ル	<p>古紙市況は、国内における古紙の回収と消費の減少が続いている。問屋の入荷も前年比マイナスとなっており、在庫も低水準で原材料古紙在庫の減少が懸念される。輸出市況面は、円安ドル高基調が強気となって、増加傾向と好調であるが、国内の需要減少が課題である。</p> <p>鉄スクラップ市況は、国内の需要・供給ともに低下傾向となっている。アジア向けの輸出は数量的な減少も見られるが、為替相場の円安ドル高基調が下支えしている。今後はメーカーの生産低調の回復が着目される。</p> <p>アルミ市況は、自動車業界の生産回復が見込まれており、強気ムードとなっているが、慢性的な発生源との需給バランスがタイトとなっている。</p>
小売業	電 化 製 品	<p>家電業界は厳しい状態が続いていますが「住宅省エネ2024キャンペーン」等リフォーム事業の補助金の活用、又、横浜市のエコハマ第2弾 冷蔵庫、エアコン、LED照明等販売促進に活用できる助成策が多くあり最需期に向けて商売に活かしていきたい。</p>
	野 菜 ・ 果 実 小 売 業	<p>5月も人参、大根、ブロッコリーの高値が続き、キャベツに至っては過去最高値を記録した。これは生産地の切り替わりがスムーズに行われなかった為で、又、収穫期の九州産のジャガ芋が、雨続きの為、乾燥が不十分でイタミが発生し、品薄になり価格が急上昇した。相変わらず小売には厳しい状況が続いている。</p>
	青 果	<p>先月に引き続き、厳しい状況の中での、販売となった。西日本各産地の出荷減少、さらに、輸送コストの上昇等により主力の人参、馬鈴薯等の入荷が減少し、関東産の切り替えが遅れ、野菜果実全般の相場は、例年にない異常な高値が続き、青果商の経営はますます厳しさを増している。相対的には、取扱量 前年比89% 取引高 前年比97%であり、今後も野菜、果実は異常気象の影響を受け、相場は予断を許さない状況である。</p>
	鮮 魚	<p>今の価格高騰は納入業務への依存度が高くなっている小売商にとって大きな問題となっている。特に学校給食においては、物資の安定供給が心配。</p>
	燃 料	<p>大手元売り会社の激変緩和事業分を織り込んだ、22日以降分の石油製品仕切り改定額は、0.0円/L横這いとなった。各元売り会社の仕切り改定額は、5月中、1.6円の値上げの状況である。原油相場はジリ安傾向が継続しており、アメリカの高金利環境が長引き、エネルギー需要を抑制するとの見方が重荷になっている状況である。</p> <p>政府の補助額は25.7円/Lで、前週比較10銭増額された格好である。激変緩和事業は、一定期間延長する旨の発表があったが、出口戦略が見えない状況であるが、今後補助事業が中止となれば、レギュラーガソリン単価25.7円が上乘せされ、神奈川県平均価格 172.4円/L+25.7円=198.1円という状況となり、物価高騰の中、厳しい環境になることは、避けられない状況が出てくることとなる。また、今後の状況については、中東情勢の緊張が高くなれば、原油相場に大きく影響する動向を注視する必要があると考える。</p>
	共 同 店 舗	<p>今年4月より収益が安定してきた。しかしながら、1F事務所にて貸し出した部分は資金繰りの関係で7月末に退去となった。</p>
	タ イ ヤ 販 売	<p>昨年の4月には原材料高騰による仕入価格の高騰に伴い、各地で値上げがおこなわれた為、駆け込み需要が多かった分、今年は需要低下になっており販売本数自体は伸びていない。コロナ明けでアクティビティーの増加に伴いスタッドレスタイヤの販売が徐々に増えた為、夏タイヤに戻す全体量は増加している為、工賃収入は増えている。</p> <p>販売価格は総務省の小売価格調査結果が神奈川県が前年比2.8%増となっている。</p>

	集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
非 製 造 業	商店街	藤 沢 市	飲食店舗は引き続き好調を維持、生鮮店舗は苦戦が続いている。商店街全体客数は、前年に対して5%減少しているが、販売価格が上昇しているため、売上高は前年並みである。しかしながら、来客数が減少していることは、商店街の魅力が無くなってきている証拠でもあり、危機感を抱く経営者が少なくない。6月中旬のプレミアム商品券販売や商店街イベントで、新規来街者の獲得を目指したい。
		川 崎 市	5月は前半ゴールデンウィークで人が動いているが買い物は控え気味、価格が上がっていることが最大の要因ではある。5月5日に子供向けイベントを久しぶりに実施、音楽イベントや出店ブース等を実施。ブース出店していただいた保育園や子供向け教室は盛況で次回の実施を希望されている。
		横 須 賀 市	5月期は大型イベントが多くあり、週末は市内外からの観光客など含め多くの来街者で賑わった。6月期も前半はイベントがあり引き続き来街者を取り込みたい。
		横 浜 市	経費は上がり、価格は転嫁できず収益は下がり気味である。
サ ー ビ ス 業	サービス業	温泉旅館・ホテル	5月も欧米客の比率が高く高価格で販売できたが、ゴールデンウィーク以降に日本人客が伸び悩みトータルでは前年並みとなった。タクシー不足が深刻な状況である。
		建 物	人材の確保難が深刻。先々の人材不足の業界としての対応を考えたい。
		建 築 設 計	令和6年6月1日（5月分） 建築業界では、資材価格の高値安定が継続している。その影響で見積に参加する業者の辞退が多くなっている。また、人手不足も深刻な問題で仕事はあるが、受注出来ない業者が増えている。就業者の高齢化が進むなかで、長期的・安定的な人手の確保が今後の大きな課題である。その他、小規模な改修計画は随時公表されている。
		ファイナンシャルプランナー	総会を開催するため、事務局はその作業でいそがしい。また、新しい年度の事業を組合員の皆様に承認していただくことも、5月の仕事である。
		情報サービス業	<ul style="list-style-type: none"> ・前年同月は5G特需の縮小影響を大きく受けた月であったので、今期と比較すると好転しているように見えているが、実際は好転している訳ではない。前期に比べて赤字幅が縮小した。 ・単金交渉は一部では満額回答を得たがアップ無しの契約もありマチマチな状況である。
柔道整復師	今年2月の神奈川県内柔道整復師療養費請求状況は、対前年同月比の97%であった。5月9日に厚労省が発表した物価上昇分を差し引いた実質賃金は24カ月連続減少と発表されている。我々の組合に賛助していただいている賛助会員もやはり物価高の影響を受けてか、経営が悪化していることが否めず、賛助会員をやめてゆかれる企業の方も多くなっている。個々の接骨院の状況からしてすぐにコロナ以前の状態に戻るとはいいがたく、医療、福祉、あはき、それらに類似する産業は右肩下がりが否めず、特に歯科、療術、は新規参入から5年後の存続率は3%といわれている。問題は、施術者の高齢化、資金繰りの悪化、対人関係の悪化、最新スキル導入が困難、などがあげられる。集客にも問題があるものの、こと接骨業界においては、なんといっても保険請求に対する保険者の執拗な調査による患者離れがあげられる。悪化は良貨を駆逐するというが、下手な抗がん剤のごとく、良い細胞も含めてすべて攻撃するような手法は考え直していただきたいものだ。最終的に困るのは国民である。		



























集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
建設業	管 工 事	公共事業等の発注などは一定程度あるが、民間の状況は昨年比去年減少傾向である。大きく状況は変わっていないが、材料費や人件費などの上昇に加え、慢性的な人材不足もあり、今後に影響を与える可能性がある。
	電 気 工 事	世界情勢、銅単価高騰、電線・材料不足、盗難、材料の高騰などが問題。人材の確保、定着が難しい状況に陥っており、このような状況が今後続くこと企業としても継続が難しい。建築業として先がないのでイメージアップに取り組んでもらいたい。若年層の建築業に対するイメージが悪すぎる。給料のベースアップに対して思った以上に価格単価が上がっていない。大企業だけが得するのはどうなのであろうか。
	管 工 事	県内の大型現場は、少ない。小規模現場は、有る。4月以降になり材料値上げになり利益が上がらない為に厳しい。夏以降に出るかなと思う。
	量 工 事	当組合の総会も無事終わり、理事が半数変わる新しい体制で、6年度がスタート。当組合関連の総会出席で、多忙である。5月は一年で一番いい気候だが仕事は少ない。6月のボーナス時に期待したい。
運輸業	道 路 貨 物	今年の5月は10連休と長めに休みをとる工場も多く、連休明け一週間程度は反動で荷量が増えたが、月間の数量は前年同期に比べて少なくなっている。4月からの働き方改革で契約運賃は上がっているが、スポット単価は荷量が増えないため、大きく変わっていない。ドライバーの残業時間を減らすため、荷待ち時間の減少に荷主も協力し始めたが、重セミトレーラのように法律で夜間運行しかできない車両については、全く対策が取れない状況が続いている。4月より夜間運行条件の一部緩和(前後に1時間延長)があったが、橋梁通過に際しては通行量が100台/時間以下、長さが200m以下の橋梁に限られたため、都市圏では全くメリットがないとの声が多く聞かれる。
	道 路 貨 物	輸送量 地場輸送 前年同月比+4.0% 海上コンテナ輸送 前年同月比+6.7% 長距離輸送 " +10.0% 重量品建築資材他 " +4.5% 輸送量は前年と比べて若干増えてはいるが、燃料などの運行経費増により、経営状況は依然きびしい。燃料の消費量が多く維持費も高い利益率の悪い大型車(ヘッド)を減車する会社が増えている。
	タ ク シ ー	ライドシェアが拡大していく事が予測され、本年度の大きな問題の一つと捉えている。
その他の非製造業	歯 科 技 工	売上はコロナ禍以前と比較しても増加したが、経費が大幅に増え粗利は減少した。前年同月と比較した場合増収となる。帝国データバンク調査によると、2023年度の医療機関における休廃業、解散は過去最多の709件。業種別では「病院」19件「診療所」580件「歯科医院」110件。10年前と比較して、診療所は2.4倍、歯科医院は2.8倍と急増し、過去最多。病院はほぼ横ばい状態となっている。背景には、経営者の高齢化および後継者不在の問題があるとしている。倒産件数も過去最多を更新しており、同社の担当者は「歯科医院の経営者の高齢化も深刻であり、DX化についていけない、関連する費用や知識習得などを考え事業承継を断念する理由の一つとなっている。時間の経過に伴いさらに増加する」と説明。
	質 屋	5月は、今までにまして貴金属の買取が多い月であった。金の価格が高値安定している状態が知れわたり、多くのお客様から買取をさせていただいた。その金額が多すぎるために、業者に転売する頻度も増やし、資金繰りも安定している。一方で、品物を担保に融資をする質業については、高額品の頻度が減り、低額の融資が増え、所得の低い人の客数が増えたように感じた。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	パ ン	・行政へは打ち切られる施策に代わるものを検討してほしい。 ・中央会へは設備投資等に使える補助金等の情報を定期的に発信してほしい。
建設業	電 気 工 事	人件費の値上げを望みます。
卸売業	卸 団 地	・物流費、光熱費等の仕入コスト上昇に対する支援を引き続き、継続的に長期的かつ幅広に対応願いたい。 ・インボイス制度導入(国税庁)、電子帳簿保存法改正対応(国税庁)、道路交通法改正による全業種運転者のアルコールチェック義務化(警察庁)等行政による生産性の乏しい事業者管理業務のみを強化している感が否めない。 それによる事業者コストをよく考え、必要以上の締め付けに対しては、緩和もしくは見合わせ(法改正を含む)の柔軟性を求めたい。 例) インボイス→軽減税率の廃止、消費税統一 アルコールチェック→業種制限を設定 電子帳簿保存→紙保存、データ保存の選択制も可とする。等 ・共同施設の修繕補助金、組合団地内インフラ整備補助金等、補助金利用を幅広く柔軟に組合が利用できるようにしてほしい。(受付期間を1~2週間ではなく、1か月等と幅広くお願いしたい)
その他の製造業	工業中心の複合業種	・原材料、石油価格高騰への対策を講じて欲しい。 ・中小企業での賃金上げに向けた支援策を講じて欲しい。
小売業	鮮 魚	物価、献立、給食費のバランスが適正かどうか目を向けてほしい。このままでは質の低下が避けられない。

景況天気図(前年比)

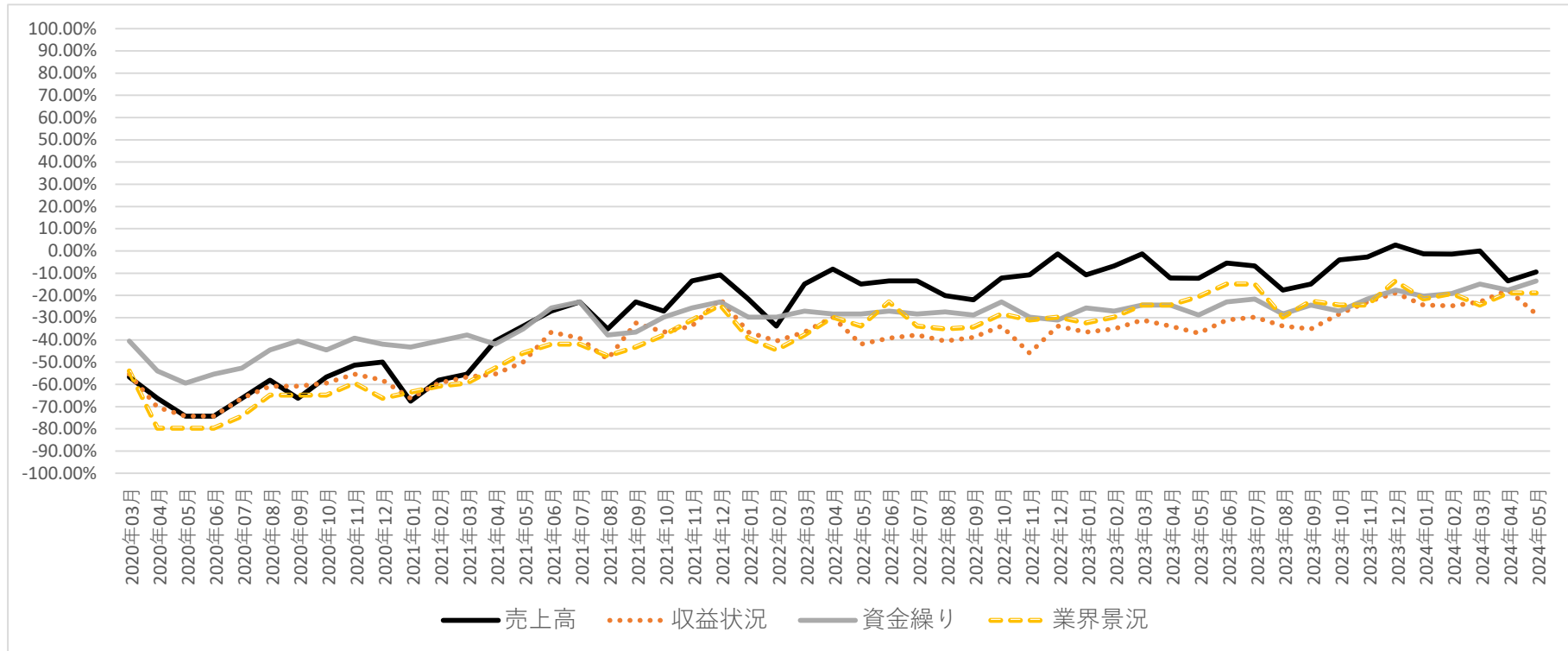
(2024年5月)

	売上高	在庫数量	販売価格	取引条件	収益状況	資金繰り	設備操業度	雇用人員	業界の景況
全体	-9.5 %	2.2 %	35.1 %	-4.1 %	-28.4 %	-13.5 %	-28.6 %	-13.5 %	-18.9 %
									
製造業	-23.8 %	4.8 %	38.1 %	-9.5 %	-42.9 %	-23.8 %	-28.6 %	-19.0 %	-28.6 %
									
非製造業	-3.8 %	0.0 %	34.0 %	-1.9 %	-22.6 %	-9.4 %	%	-11.3 %	-15.1 %
							-		

天気図の見方・・・・・・各景況項目について「増加」（または「好転）」業種割合から「減少」（または「悪化）」業種割合を引いた値（KJI）をもとに作成。その基準は次の通りである。ただし、在庫数量はKJI値プラスの時には雨、マイナスの場合には晴れの方向に著した。KJIとは、「神奈川県情報連絡員調査指数」の略である。

快晴	晴れ	くもり	雨	雪
				
30以上	10~30未満	10未満~△10	△10未満~△30未満	△30以上

中小企業団体景況グラフ(全業種の主要項目)



本調査は、神奈川県中央会が委嘱した情報連絡員の役職員74名による調査結果です。調査対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員「全業種」の景況（前年度同月比）です。

4月の中小企業月次景況調査

〔令和6年4月末現在〕

 全国中小企業団体中央会
National Federation of Small Business Associations

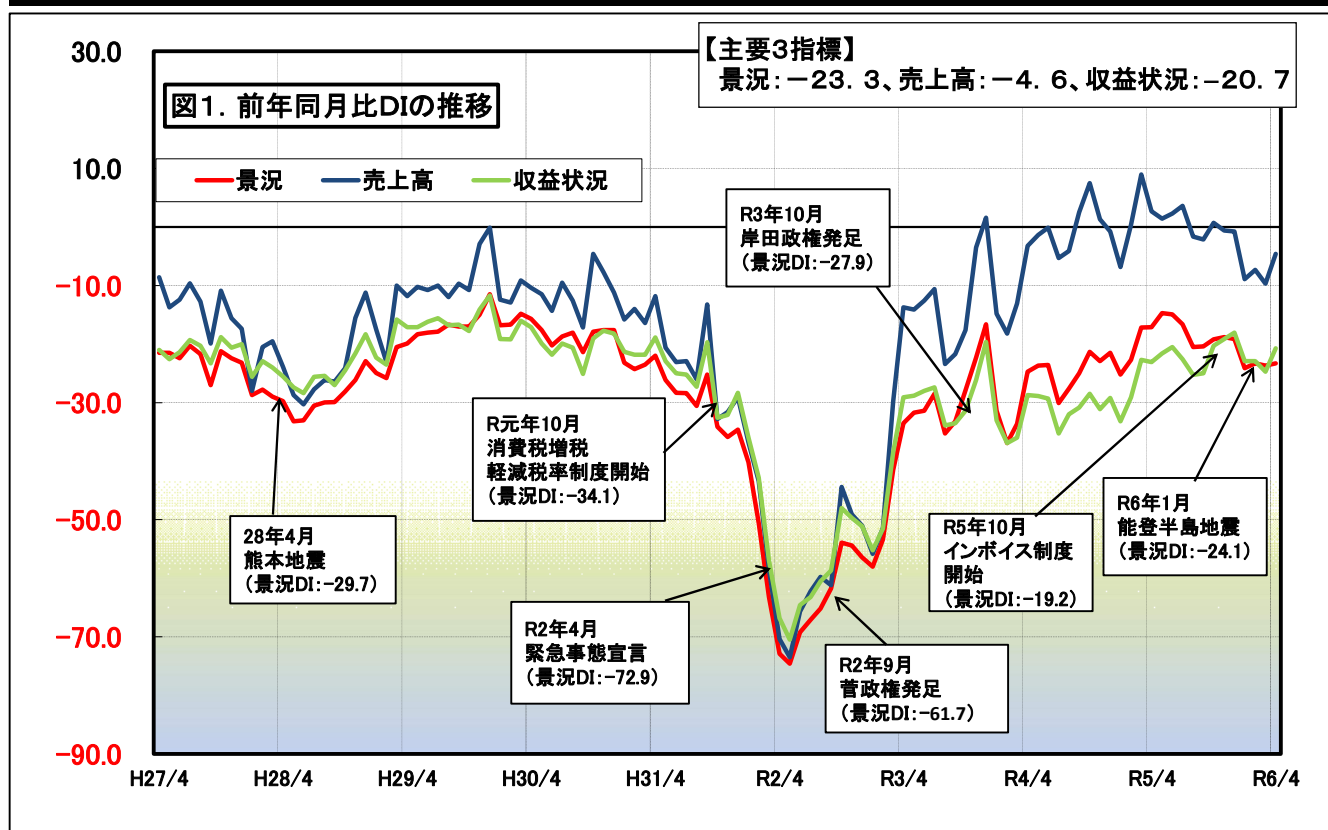
令和6年5月27日発表

◎4月のDIは多くの指標で前月比上昇。

○インバウンドの増加に加え、春休みやGWで人出が増加したことから、非製造業を中心に景況感は上昇。

○一方で、人手不足・人材確保の問題が、依然として多くの業種で収益力の足かせとなっている。

○また、賃上げの原資確保に苦慮する事業者から、引き続き多くのコメントが寄せられている。



※DIとは、Diffusion Index (ディフュージョン・インデックス) の略で、好転 (増加・上昇) したとする割合から、悪化 (減少・低下) したとする割合を差し引いた値です。

本調査は、都道府県中央会に設置されている情報連絡員〔中小企業の組合 (協同組合、商工組合等) の役職員約2,600名に委嘱〕による調査結果です。
調査の対象は、情報連絡員が所属する組合の組合員の全体的な景況 (前年同月比) です。

(本発表資料のお問い合わせ先)
全国中小企業団体中央会
担当：政策推進部
TEL 03-3523-4902
<https://www.chuokai.or.jp>

4月の調査結果のD I 概況

【指標D Iの動向とポイント】

1. 4月のD Iは多くの指標で前月比上昇。主要3指標は、景況が0.4ポイント上昇、売上高が5.1ポイント上昇、収益状況は4.0ポイント上昇した。
2. 主要3指標以外では、販売価格のD Iが4.1ポイント上昇した。
3. インバウンドの増加に加え、春休みやGWで人出が増加したことから、非製造業を中心に景況感は上昇。

全指標の前年同月比D Iの推移（直近1年間）

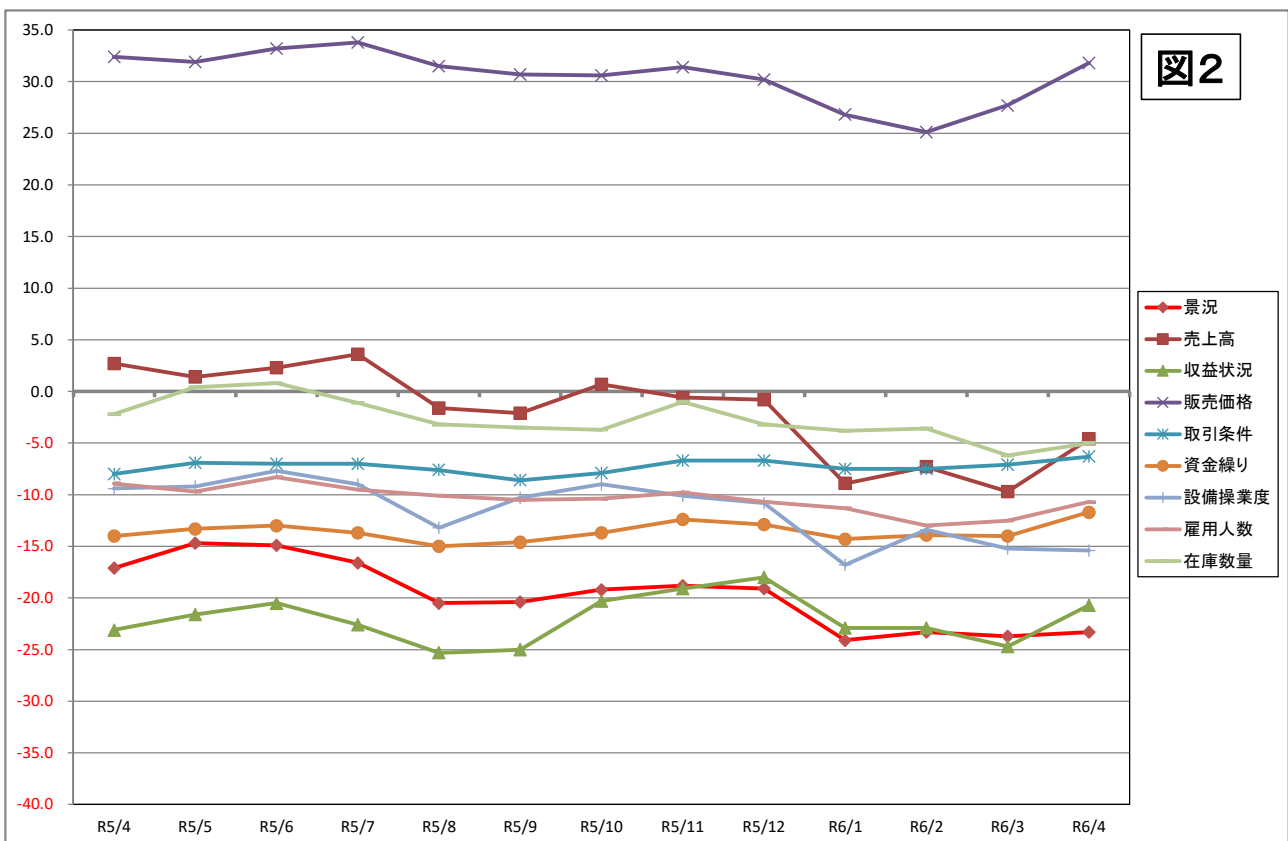


表1	R5												R6	前月比
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
景況	-17.1	-14.7	-14.9	-16.6	-20.5	-20.4	-19.2	-18.8	-19.1	-24.1	-23.3	-23.7	-23.3	0.4
売上高	2.7	1.4	2.3	3.6	-1.6	-2.1	0.7	-0.6	-0.8	-8.9	-7.3	-9.7	-4.6	5.1
収益状況	-23.1	-21.6	-20.5	-22.6	-25.3	-25.0	-20.3	-19.1	-18.0	-22.9	-22.9	-24.7	-20.7	4.0
販売価格	32.4	31.9	33.2	33.8	31.5	30.7	30.6	31.4	30.2	26.8	25.1	27.7	31.8	4.1
取引条件	-8.0	-6.9	-7.0	-7.0	-7.6	-8.6	-7.9	-6.7	-6.7	-7.5	-7.5	-7.1	-6.3	0.8
資金繰り	-14.0	-13.3	-13.0	-13.7	-15.0	-14.6	-13.7	-12.4	-12.9	-14.3	-13.9	-14.0	-11.7	2.3
設備操業度	-9.4	-9.2	-7.7	-9.0	-13.2	-10.3	-9.0	-10.1	-10.8	-16.8	-13.4	-15.2	-15.4	-0.2
雇用人員	-8.9	-9.7	-8.3	-9.5	-10.1	-10.5	-10.4	-9.8	-10.7	-11.3	-13.0	-12.5	-10.7	1.8
在庫数量	-2.2	0.4	0.8	-1.1	-3.2	-3.5	-3.7	-1.0	-3.2	-3.8	-3.6	-6.2	-5.0	1.2

【情報連絡員報告から総括する景況調査のPOINT】

1. 原材料価格、エネルギー価格の高騰に加え、人件費の上昇による収益悪化に苦慮しているコメントが、引き続き多数寄せられた。
2. 人手不足・人材確保の問題についても、全ての業種から引き続き数多く報告されている。
3. また、賃上げの原資確保に苦慮する事業者からも多くのコメントが寄せられている。

《主な報告内容》

◇原材料価格、エネルギー価格高騰、人件費上昇に対する価格転嫁への対応等

- ・売上は昨年より増加しているが、材料価格が上がっている要因のものであるため、実質は良くない。また、政府が賃金アップを推進しているため大手の得意先に交渉しているが、ほとんど反映してもらえず、中小企業は賃金アップが難しくなっている。電気代も高止まりで物価だけが上がっているのでますます収益は悪化の方向に向かっている状況で先行きが期待できない。（三重県/一般機器製造業）
- ・為替の円安により5月から輸入水産物を値上げすると連絡が来ている。運賃はこの4月より値上げとなった。光熱費、ガソリン代は高止まりしている上、人件費は労働力の確保のため5%~8%アップとなっており、全ての経費が上昇している状況。人の動き、モノの動きは良くなって売上は増加しているが利益が増加していない。（島根県/水産練製品製造業）
- ・労務費の値上げ交渉は国の後押しもあり、大手企業はかなり希望通りに認めてもらえたが、地場大手・中堅に未だに厳しい所がある。売り上げは値上げ分が増えたが、設備更新の為に投資が出来るまでには至らない。ましてや、持続可能な企業になるための新規設備投資はまだ遠い。数年は続くと思われる賃金上昇に対応し、来年の値上げの心配をしている。（福岡県/鉄素型材製造業）

◇人手不足、人材確保の問題に対する経営への影響

- ・動きは少し出てきたようであるが、人材確保が厳しくなっている。給与アップも難しい状況の中、新規採用より退職者数の方が目立っている。日本の賃金では外国人の採用も厳しくなってきた。（神奈川県/その他製造業）
- ・4月の売上状況は前年同月比15%減少。2店舗の休業が行楽シーズンにおける売上機会の損失に繋がっている。また、人手不足により店休日を設ける店が増加していることも、売上減少の要因になっている。（山口県/各種商品小売業）
- ・前年同月と比べると受注数が増加傾向で、売上も回復しつつある。費用を見てみると、原材料面で、不安定な世界情勢の影響等で輸入原料の高騰や円安による物価上昇、物流コストの上昇、人件費高騰によって利益に影響が出ている。また、人材不足も続いており、企業によっては外国人技能実習生及び特定技能外国人に頼っている面がある。（愛媛県/食料品製造業）

◇賃上げ原資の確保に苦慮する事業者の声

- ・当組合における話題としては、人材確保や賃上げに関するものが最も多く、他の会社との情報を参考するなど、大企業の賃上げ率UPを尻目に各組合員は苦慮している状況。（北海道/各種商品卸売業）
- ・先月に引き続き、業界全体で売上の低迷が続いている。併せて中小企業においては、原材料等の値上がりや人件費高騰を受注価格に転嫁させることが困難な状況が続いている。賃上げを実施している企業はごく一部で、殆どの中小企業が実施出来ていない。（宮城県/機械金属）
- ・人を募っても集まらないという声があり、新卒の採用人数も、ここ数年来ずっと減少傾向にある。価格転嫁は進んでいるが、資機材の値上がりと同等までは難しい。最低賃金対応も進んでいるが、経営への負担は免れないという声もある。（京都府/印刷業）

※ 後述の「Pick up!」ならびに「情報連絡員からの報告（要旨）」等も参照。

1. 景況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 23.7	▲ 23.3	0.4	上昇	↗
製造業	▲ 32.0	▲ 33.7	▲ 1.7	悪化	↘
非製造業	▲ 17.6	▲ 15.4	2.2	上昇	↗
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	紙・紙加工品			
	5～10ポイント	化学・ゴム、窯業・土石製品、輸送機器、サービス業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	印刷、電気機器			
	5～10ポイント	繊維工業、木材・木製品、鉄鋼・金属、その他の製造業			

表2. 業種別【景況】DIの推移（前年同月比）

業種名	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	6/1	6/2	6/3	6/4	前月比
全体	-17.1	-14.7	-14.9	-16.6	-20.5	-20.4	-19.2	-18.8	0.4	-24.1	-23.3	-23.7	-23.3	0.4
製造業	-27.8	-23.9	-23.7	-24.5	-29.6	-27.6	-26.6	-25.9	-25.9	-29.6	-30.4	-32.0	-33.7	-1.7
食料品	-14.8	-12.3	-19.7	-17.9	-21.5	-18.7	-16.5	-20.2	-20.2	-19.4	-17.1	-16.6	-13.4	3.2
繊維工業	-18.6	-9.0	-16.8	-22.6	-26.1	-24.8	-29.2	-26.7	-26.7	-34.5	-33.6	-30.6	-39.1	-8.5
木材・木製品	-62.5	-59.1	-55.3	-52.3	-58.2	-52.7	-51.3	-50.5	-50.5	-55.1	-50.9	-48.2	-53.6	-5.4
紙・紙加工品	-57.1	-17.4	-47.8	-47.9	-52.0	-54.1	-45.9	-36.0	-36.0	-24.0	-41.6	-54.1	-32.0	22.1
印刷	-32.8	-35.6	-33.3	-39.6	-42.1	-41.0	-35.7	-29.8	-29.8	-43.8	-37.9	-31.6	-50.0	-18.4
化学・ゴム	-29.6	-28.6	-21.5	-28.5	-25.0	-32.2	-21.5	-21.5	-21.5	-21.4	-27.6	-27.6	-21.2	6.4
窯業・土石製品	-35.6	-33.8	-38.2	-35.9	-41.1	-38.0	-34.0	-31.3	-31.3	-34.1	-35.6	-39.7	-32.0	7.7
鉄鋼・金属	-30.0	-25.2	-14.2	-13.7	-21.8	-23.3	-21.0	-23.0	-29.7	-29.8	-38.1	-41.7	-50.0	-8.3
一般機器	-18.5	-17.3	-5.8	-1.9	-19.8	-14.7	-17.0	-12.6	-15.9	-19.6	-18.0	-26.7	-25.3	1.4
電気機器	-3.6	-10.7	-6.9	-25.0	-28.6	-21.4	-28.6	-21.4	-20.7	-17.8	-29.6	-32.2	-44.9	-12.7
輸送機器	-11.3	2.3	0.0	-2.3	-2.3	4.6	2.2	-2.4	4.5	0.0	-9.1	-16.3	-9.6	6.7
その他の製造業	-23.5	-25.5	-17.7	-25.5	-19.6	-26.0	-26.0	-27.4	-12.5	-34.0	-28.0	-30.0	-38.0	-8.0
非製造業	-9.1	-7.8	-8.3	-10.7	-13.6	-15.0	-13.6	-13.4	-14.7	-20.0	-18.1	-17.6	-15.4	2.2
卸売業	-7.8	-10.8	-9.3	-6.0	-17.5	-13.0	-12.7	-15.0	-19.1	-22.4	-17.2	-15.5	-14.5	1.0
小売業	-20.9	-18.2	-15.0	-20.0	-20.1	-23.7	-24.2	-24.0	-20.5	-30.8	-26.0	-27.5	-27.9	-0.4
商店街	-4.5	-8.2	-10.7	-12.5	-16.3	-21.8	-14.0	-16.4	-13.5	-15.4	-19.3	-18.7	-17.7	1.0
サービス業	13.6	15.2	9.3	6.9	6.9	2.8	2.9	4.4	-2.5	-6.8	-2.5	-0.3	5.0	5.3
建設業	-20.8	-14.5	-11.4	-14.5	-15.7	-15.0	-15.8	-14.1	-19.1	-18.9	-23.4	-22.7	-19.4	3.3
運輸業	-14.0	-16.5	-18.6	-24.0	-25.2	-26.2	-20.6	-17.3	-14.7	-27.7	-23.8	-24.3	-22.6	1.7
その他の非製造業	-10.0	-3.3	-10.0	-10.4	-27.6	-23.3	-10.4	-17.3	-10.0	-10.0	-13.3	-10.3	-6.6	3.7

Pick up!

「紙・紙加工品」：円安の影響で古紙の輸出が上昇基調になる等、サプライチェーン間にある在庫が解消されつつあり、景況DIは▲32.0と、前月比22.1ポイント上昇。
「印刷」：紙媒体の減少による印刷物の減少等により、需要が低迷していることから、景況DIは▲50.0と、前月比18.4ポイント低下。

2. 売上高

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 9.7	▲ 4.6	5.1	上昇	↗
製造業	▲ 18.4	▲ 14.6	3.8	上昇	↗
非製造業	▲ 3.1	2.9	6.0	上昇	↗
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	紙・紙加工品、化学・ゴム、窯業・土石製品、商店街、その他の非製造業			
	5～10ポイント	輸送機器、卸売業、運輸業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	なし			
	5～10ポイント	電気機器			

表3. 業種別【売上高】DIの推移（前年同月比）

業種名	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	6/1	6/2	6/3	6/4	前月比
全体	2.7	1.4	2.3	3.6	-1.6	-2.1	0.7	-0.6	-0.8	-8.9	-7.3	-9.7	-4.6	5.1
製造業	-2.9	-0.3	-3.2	-1.7	-10.7	-9.2	-1.8	-5.9	-6.5	-13.7	-13.7	-18.4	-14.6	3.8
食料品	20.4	20.1	16.0	9.2	11.7	12.7	15.4	14.5	21.0	4.6	12.1	12.6	8.3	-4.3
繊維工業	7.1	1.8	6.2	4.3	-1.8	-7.0	-0.9	-2.7	-11.4	-15.0	-13.6	-14.4	-13.6	0.8
木材・木製品	-53.6	-49.1	-55.4	-44.2	-49.1	-38.4	-28.3	-33.3	-38.4	-39.4	-39.3	-34.8	-39.3	-4.5
紙・紙加工品	-4.7	21.8	-30.5	4.4	-32.0	-41.6	-4.2	-12.0	16.0	-12.0	-25.0	-37.5	8.0	45.5
印刷	-8.6	-13.6	-3.4	1.7	-8.7	7.2	-5.4	-10.5	5.2	-15.8	-10.3	-28.0	-30.4	-2.4
化学・ゴム	11.1	14.3	0.0	7.1	3.6	3.6	3.5	17.9	0.0	-3.6	-24.2	-17.3	-3.0	14.3
窯業・土石製品	-22.9	-6.7	-22.7	-10.0	-26.9	-29.4	-17.1	-22.9	-13.0	-23.0	-25.0	-33.6	-8.6	25.0
鉄鋼・金属	-4.5	-2.3	6.7	1.5	-12.7	-15.0	-5.2	-10.0	-19.3	-15.0	-24.7	-44.7	-40.9	3.8
一般機器	1.0	1.0	18.3	16.5	-7.9	0.0	8.0	0.0	-4.9	-10.8	-13.0	-16.9	-15.1	1.8
電気機器	7.1	-7.1	-17.3	-21.4	-17.9	-25.0	-25.0	-32.1	-38.0	-35.7	-14.8	-14.3	-24.2	-9.9
輸送機器	15.9	20.4	13.6	27.3	6.8	13.6	28.8	19.1	-4.6	0.0	-6.8	4.7	11.9	7.2
その他の製造業	4.0	0.0	-9.9	-17.7	-17.7	-14.0	-2.0	-3.9	-10.4	-18.0	-10.0	-24.0	-24.0	0.0
非製造業	6.7	2.6	6.4	7.6	5.3	3.1	2.7	3.6	3.4	-5.4	-2.6	-3.1	2.9	6.0
卸売業	11.8	6.9	17.3	20.7	10.6	9.4	8.3	13.5	7.8	-1.4	7.4	1.0	9.0	8.0
小売業	-6.4	-13.0	-0.6	1.9	4.7	-1.6	-6.5	-3.1	-4.4	-18.9	-12.3	-10.9	-7.1	3.8
商店街	15.2	13.7	18.8	13.8	12.4	4.0	3.9	5.7	12.2	-0.7	5.0	-5.6	8.2	13.8
サービス業	28.2	27.9	21.1	19.4	23.0	16.2	19.5	18.3	14.3	11.1	13.7	11.8	16.5	4.7
建設業	-10.3	-10.0	-9.2	-8.5	-15.7	-10.4	-9.9	-9.4	-8.5	-10.5	-18.8	-11.3	-10.5	0.8
運輸業	7.0	-10.9	-10.0	0.0	-6.3	-1.5	-2.3	-4.7	2.3	-10.8	-8.5	-3.1	3.9	7.0
その他の非製造業	6.7	0.0	0.0	0.0	-6.9	10.0	17.3	0.0	3.3	0.0	-6.6	-3.4	13.3	16.7

Pick up!

「窯業・土石製品」：インバウンドの増加に加え、春休みやGWで人出が増加し、陶器等の販売が好調だったことから、売上高DIは▲8.6と、前月比25.0ポイント上昇。

「商店街」：暖かく気候も安定して人出も多かったことから、売上高DIは8.2と、前月比13.8ポイント上昇。

3. 収益状況

	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 24.7	▲ 20.7	4.0	上昇	↗
製造業	▲ 31.3	▲ 29.3	2.0	上昇	↗
非製造業	▲ 19.8	▲ 14.2	5.6	上昇	↗
DIが大きく上昇した業種	10ポイント超	紙・紙加工品、輸送機器			
	5～10ポイント	窯業・土石製品、商店街、サービス業、建設業、運輸業			
DIが大きく悪化した業種	10ポイント超	印刷、電気機器			
	5～10ポイント	化学・ゴム			

表4. 業種別【収益状況】DIの推移（前年同月比）

業種名	5/4	5/5	5/6	5/7	5/8	5/9	5/10	5/11	5/12	6/1	6/2	6/3	6/4	前月比
全体	-23.1	-21.6	-20.5	-22.6	-25.3	-25.0	-20.3	-19.1	-18.0	-22.9	-22.9	-24.7	-20.7	4.0
製造業	-32.1	-31.5	-28.3	-30.7	-34.0	-30.0	-23.4	-21.7	-21.7	-27.7	-28.9	-31.3	-29.3	2.0
食料品	-23.5	-21.6	-20.2	-26.7	-23.5	-23.7	-16.0	-15.0	-6.1	-15.3	-13.1	-16.2	-13.4	2.8
繊維工業	-31.8	-31.5	-27.4	-31.3	-36.0	-29.2	-23.0	-22.3	-28.0	-36.3	-30.9	-33.3	-30.9	2.4
木材・木製品	-52.7	-54.6	-49.1	-54.1	-51.8	-51.8	-40.7	-39.6	-43.9	-49.6	-41.9	-41.0	-42.8	-1.8
紙・紙加工品	-47.6	-43.5	-34.8	-26.1	-40.0	-29.2	-29.2	-32.0	-28.0	-20.0	-41.7	-25.0	-4.0	21.0
印刷	-25.9	-42.3	-36.7	-39.6	-45.6	-48.2	-44.6	-35.1	-26.3	-38.6	-36.2	-35.1	-46.4	-11.3
化学・ゴム	-29.6	-42.8	-50.0	-32.2	-32.2	-35.7	-14.3	-10.7	-21.4	-25.0	-27.6	-24.1	-30.3	-6.2
窯業・土石製品	-34.0	-30.1	-33.1	-29.0	-39.6	-32.5	-28.9	-19.9	-19.9	-32.6	-34.8	-35.1	-25.8	9.3
鉄鋼・金属	-31.6	-30.7	-23.2	-30.6	-30.1	-25.6	-22.5	-21.5	-26.7	-23.9	-38.0	-44.7	-40.9	3.8
一般機器	-32.0	-26.9	-17.3	-17.5	-32.7	-18.7	-13.0	-16.5	-16.8	-20.6	-20.0	-30.6	-31.3	-0.7
電気機器	-21.4	-17.8	-24.1	-39.3	-28.6	-32.2	-14.3	-21.5	-31.1	-25.0	-22.2	-25.0	-41.4	-16.4
輸送機器	-31.8	-22.7	-18.2	-11.4	-11.3	-9.1	-4.4	-11.9	-20.4	-21.0	-25.0	-30.3	-14.3	16.0
その他の製造業	-23.6	-25.5	-25.5	-29.4	-37.3	-30.0	-22.0	-17.7	-8.3	-20.0	-30.0	-28.0	-30.0	-2.0
非製造業	-16.5	-14.3	-14.5	-16.4	-18.7	-21.2	-18.1	-17.1	-15.3	-19.3	-18.4	-19.8	-14.2	5.6
卸売業	-15.2	-15.7	-16.3	-16.3	-19.6	-21.9	-16.1	-12.0	-14.3	-17.0	-13.3	-17.1	-15.5	1.6
小売業	-28.9	-25.0	-24.3	-24.6	-26.5	-29.6	-27.7	-25.8	-20.8	-26.1	-28.5	-29.7	-27.3	2.4
商店街	-13.3	-15.0	-6.9	-13.8	-16.9	-25.2	-19.1	-17.1	-14.8	-21.8	-18.1	-21.8	-14.5	7.3
サービス業	3.5	8.1	3.3	-1.1	0.8	-5.7	-4.7	-5.1	-3.9	-7.9	-7.4	-6.9	2.8	9.7
建設業	-24.9	-19.4	-21.9	-20.8	-24.1	-22.5	-21.8	-22.1	-22.0	-23.2	-22.6	-23.6	-17.7	5.9
運輸業	-19.4	-22.6	-20.9	-26.3	-29.9	-29.3	-19.8	-19.6	-15.4	-23.1	-20.0	-19.6	-10.9	8.7
その他の非製造業	-13.3	-23.3	-16.7	-6.9	-31.1	-13.3	-13.8	-17.3	-20.0	-10.0	-13.3	-13.8	-10.0	3.8

Pick up!

「サービス業」：インバウンドの増加に加え、春休みやGWで人出が増加したことにより飲食やホテル・旅館が好調で、収益状況DIは2.8と、前月比9.7ポイント上昇。

「電気機器」：一部の大手自動車メーカーの減産の影響や中国市場の需要が低下していることから、収益状況DIは▲41.4と、前月比16.4ポイント低下。

4. 資金繰り、販売価格、取引条件、設備操業度、雇用人員、在庫数量

(1) 資金繰り	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 14.0	▲ 11.7	2.3	上昇	↗
製造業	▲ 16.6	▲ 15.4	1.2	上昇	↗
非製造業	▲ 12.1	▲ 8.9	3.2	上昇	↗
(2) 販売価格	前月	当月	増減	傾向	
全体	27.7	31.8	4.1	上昇	↗
製造業	23.8	26.0	2.2	上昇	↗
非製造業	30.7	36.1	5.4	上昇	↗
(3) 取引条件	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 7.1	▲ 6.3	0.8	上昇	↗
製造業	▲ 6.3	▲ 5.6	0.7	上昇	↗
非製造業	▲ 7.8	▲ 6.7	1.1	上昇	↗
(4) 設備操業度	前月	当月	増減	傾向	
製造業	▲ 15.2	▲ 15.4	▲ 0.2	悪化	↘
(5) 雇用人員	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 12.5	▲ 10.7	1.8	上昇	↗
製造業	▲ 12.7	▲ 13.3	▲ 0.6	悪化	↘
非製造業	▲ 12.2	▲ 8.8	3.4	上昇	↗
(6) 在庫数量	前月	当月	増減	傾向	
全体	▲ 6.2	▲ 5.0	1.2	上昇	↗
製造業	▲ 4.6	▲ 4.9	▲ 0.3	悪化	↘
非製造業	▲ 8.4	▲ 5.3	3.2	上昇	↗

Calendar 2024

～～ 国内外の主なトピックス（令和6年5月）～～

5月9日（木）	3月の景気動向指数：内閣府。景気の現状を示す一致指数は前月比2.4ポイント上昇の113.9となり、3カ月ぶりの上昇となった。出荷を停止していた一部自動車メーカーの生産ラインが再稼働したほか、半導体製造装置などの出荷が増加した。
5月10日（金）	2023年度の国際収支統計：財務省。経常収支は黒字額が前年度比2.8倍の25兆3390億円と過去最大となった。自動車の輸出回復などにより、モノの輸出額から輸入額を差し引いた貿易収支の赤字幅が大幅に縮小してことが主な要因。
5月10日（金）	4月の景気ウォッチャー調査：内閣府。現状判断指数は前月比2.4ポイント低下の47.4と2カ月連続低下。円安による物価上昇への懸念が根強く、基調判断を「緩やかな回復基調が続いているものの、このところ弱さがみられる」に下方修正した。
5月14日（火）	4月の工作機械受注額：日本工作機械工業会。前年同月比12%減の1172億円と16カ月連続で前年同月を下回った。国内外ともに受注は低迷しており、自動車関連や半導体関連などで設備投資の調整局面が続いている。
5月16日（木）	1～3月の国内総生産（GDP）：内閣府。速報値は、物価変動の影響を除いた実質GDPが前期比で年率換算2.0%減と2四半期ぶりのマイナスになった。自動車の生産停止の影響で設備投資や輸出が減少した。

表5. 主要指標の業種別 D I(前年同月比)

(令和6年4月末現在)

	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
全 体	-23.3	-4.6	-20.7	31.8	-6.3	-11.7	-15.4	-10.7	-5.0
製 造 業	-33.7	-14.6	-29.3	26.0	-5.6	-15.4	-15.4	-13.3	-4.9
非 製 造 業	-15.4	2.9	-14.2	36.1	-6.7	-8.9		-8.8	-5.3

(製 造 業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
食 料 品	-13.4	8.3	-13.4	41.8	-6.2	-10.8	3.6	-10.8	2.1
織 維 工 業	-39.1	-13.6	-30.9	23.6	-6.3	-17.3	-21.0	-10.0	-13.6
木 材・木 製 品	-53.6	-39.3	-42.8	-7.1	-16.1	-18.7	-25.9	-13.4	-18.8
紙・紙加工品	-32.0	8.0	-4.0	36.0	4.0	-16.0	-24.0	-12.0	-4.0
印 刷	-50.0	-30.4	-46.4	28.5	-1.8	-17.8	-30.3	-26.8	-7.1
化 学・ゴ ム	-21.2	-3.0	-30.3	33.4	0.0	-9.1	-3.0	0.0	-6.1
窯業・土石製品	-32.0	-8.6	-25.8	47.6	0.0	-16.4	-20.3	-18.8	1.5
鉄 鋼・金 属	-50.0	-40.9	-40.9	22.0	-8.4	-16.7	-28.8	-17.4	-4.5
一 般 機 器	-25.3	-15.1	-31.3	17.2	-6.1	-9.1	-12.1	-7.0	4.0
電 気 機 器	-44.9	-24.2	-41.4	17.3	-10.3	-24.2	-13.8	-27.6	-20.7
輸 送 機 器	-9.6	11.9	-14.3	9.5	4.8	-16.6	0.0	-2.4	-7.2
その他の製造業	-38.0	-24.0	-30.0	22.0	-4.0	-24.0	-12.0	-12.0	-4.0

(非 製 造 業)

業 種 名	業界の景況	売上高	収益状況	販売価格	取引条件	資金繰り	設備操業度	雇用人員	在庫数量
卸 売 業	-14.5	9.0	-15.5	45.5	-7.0	-7.0		-9.5	-3.0
小 売 業	-27.9	-7.1	-27.3	43.6	-18.3	-16.7		-12.5	-7.4
商 店 街	-17.7	8.2	-14.5	41.8	-12.1	-13.3		-5.1	-3.8
サ ー ビ ス 業	5.0	16.5	2.8	32.6	3.2	-1.1		-5.4	
建 設 業	-19.4	-10.5	-17.7	22.3	-6.8	-6.7		-7.1	
運 輸 業	-22.6	3.9	-10.9	29.7	4.7	-10.1		-16.4	
その他の非製造業	-6.6	13.3	-10.0	36.7	0.0	-3.3		3.3	

表6. 主要指標の業種別景況調査総括表(前年同月比)

(令和6年 4月 末現在)

(単位:%)

業種	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
全体	7.8	61.1	31.1	25.9	43.6	30.5	11.1	57.1	31.8	36.1	59.6	4.3	4.6	84.5	10.9	4.1	80.0	15.8	9.4	65.8	24.8	5.8	77.7	16.5	11.0	73.0	16.0
製造業	5.8	54.7	39.5	22.1	41.2	36.7	8.7	53.3	38.0	31.7	62.6	5.7	3.7	87.0	9.3	3.3	78.0	18.7	9.4	65.8	24.8	5.0	76.6	18.3	11.5	72.1	16.4
非製造業	9.3	66.0	24.7	28.7	45.5	25.8	12.9	60.0	27.1	39.4	57.3	3.3	5.4	82.5	12.1	4.8	81.5	13.7	0.0	0.0	0.0	6.3	78.6	15.1	10.1	74.5	15.4

(製造業)

業種	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
食料品	10.8	64.9	24.2	35.1	38.1	26.8	13.4	59.8	26.8	43.3	55.2	1.5	2.6	88.7	8.8	5.7	77.8	16.5	14.9	73.7	11.3	6.7	75.8	17.5	15.5	71.1	13.4
繊維工業	4.5	51.8	43.6	16.4	53.6	30.0	6.4	56.4	37.3	30.0	63.6	6.4	5.5	82.7	11.8	2.7	77.3	20.0	4.5	70.0	25.5	4.5	80.9	14.5	8.2	70.0	21.8
木材・木製品	0.9	44.6	54.5	12.5	35.7	51.8	3.6	50.0	46.4	17.0	58.9	24.1	0.0	83.9	16.1	0.9	79.5	19.6	4.5	65.2	30.4	4.5	77.7	17.9	11.6	58.0	30.4
紙・紙加工品	12.0	44.0	44.0	36.0	36.0	28.0	24.0	48.0	28.0	36.0	64.0	0.0	8.0	88.0	4.0	4.0	76.0	20.0	20.0	36.0	44.0	4.0	80.0	16.0	20.0	56.0	24.0
印刷	5.4	39.3	55.4	12.5	44.6	42.9	5.4	42.9	51.8	33.9	60.7	5.4	7.1	83.9	8.9	5.4	71.4	23.2	5.4	58.9	35.7	3.6	66.1	30.4	5.4	82.1	12.5
化学・ゴム	6.1	66.7	27.3	21.2	54.5	24.2	9.1	51.5	39.4	36.4	60.6	3.0	3.0	93.9	3.0	3.0	84.8	12.1	18.2	60.6	21.2	12.1	75.8	12.1	12.1	69.7	18.2
窯業・土石製品	6.3	55.5	38.3	28.9	33.6	37.5	12.5	49.2	38.3	48.4	50.8	0.8	4.7	90.6	4.7	3.1	77.3	19.5	8.6	62.5	28.9	0.0	81.3	18.8	11.7	78.1	10.2
鉄鋼・金属	1.5	47.0	51.5	11.4	36.4	52.3	3.8	51.5	44.7	25.8	70.5	3.8	3.0	85.6	11.4	1.5	80.3	18.2	3.0	65.2	31.8	5.3	72.0	22.7	11.4	72.7	15.9
一般機器	3.0	68.7	28.3	16.2	52.5	31.3	7.1	54.5	38.4	20.2	76.8	3.0	2.0	89.9	8.1	3.0	84.8	12.1	10.1	67.7	22.2	5.1	82.8	12.1	12.1	79.8	8.1
電気機器	3.4	48.3	48.3	24.1	27.6	48.3	3.4	51.7	44.8	27.6	62.1	10.3	0.0	89.7	10.3	3.4	69.0	27.6	17.2	51.7	31.0	3.4	65.5	31.0	10.3	58.6	31.0
輸送機器	19.0	52.4	28.6	38.1	35.7	26.2	14.3	57.1	28.6	19.0	71.4	9.5	14.3	76.2	9.5	2.4	78.6	19.0	19.0	61.9	19.0	14.3	69.0	16.7	7.1	78.6	14.3
その他の製造業	4.0	54.0	42.0	10.0	56.0	34.0	8.0	54.0	38.0	24.0	74.0	2.0	2.0	92.0	6.0	4.0	68.0	28.0	8.0	72.0	20.0	4.0	80.0	16.0	8.0	80.0	12.0

(非製造業)

業種	業界の景況			売上高			収益状況			販売価格			取引条件			資金繰り			設備操業度			雇用人員			在庫数量		
	好転	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	低下	増加	不変	減少	増加	不変	減少
卸売業	9.0	67.5	23.5	37.0	35.0	28.0	14.0	56.5	29.5	48.0	49.5	2.5	5.0	83.0	12.0	4.0	85.0	11.0				4.5	81.5	14.0	12.5	72.0	15.5
小売業	4.8	62.5	32.7	26.9	39.1	34.0	9.6	53.5	36.9	47.8	48.1	4.2	2.2	77.2	20.5	3.5	76.3	20.2				2.6	82.4	15.1	8.3	76.0	15.7
商店街	9.5	63.3	27.2	32.3	43.7	24.1	13.3	58.9	27.8	46.2	49.4	4.4	4.4	79.1	16.5	3.8	79.1	17.1				4.4	86.1	9.5	10.8	74.7	14.6
サービス業	19.0	67.0	14.0	32.3	52.0	15.8	18.6	65.6	15.8	34.8	63.1	2.2	9.3	84.6	6.1	7.9	83.2	9.0				10.4	73.8	15.8			
建設業	4.2	72.2	23.6	17.3	54.9	27.8	7.6	67.1	25.3	27.4	67.5	5.1	4.2	84.8	11.0	3.8	85.7	10.5				8.9	75.1	16.0			
運輸業	9.4	58.6	32.0	28.1	47.7	24.2	16.4	56.3	27.3	30.5	68.8	0.8	8.6	87.5	3.9	4.7	80.5	14.8				6.3	71.1	22.7			
その他の非製造業	6.7	80.0	13.3	33.3	46.7	20.0	13.3	63.3	23.3	36.7	63.3	0.0	3.3	93.3	3.3	6.7	83.3	10.0				10.0	83.3	6.7			

表7. 全国及び各地域別の【業界の景況・売上高・収益状況】(前年同月比)

(令和 6年 4月 末現在)

〔全国〕

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	7.8	61.1	31.1	-23.3	25.9	43.6	30.5	-4.6	11.1	57.1	31.8	-20.7
製造業	5.8	54.7	39.5	-33.7	22.1	41.2	36.7	-14.6	8.7	53.3	38.0	-29.3
非製造業	9.3	66.0	24.7	-15.4	28.7	45.5	25.8	2.9	12.9	60.0	27.1	-14.2

〔近畿地方〕

滋賀県, 京都府, 奈良県, 大阪府, 兵庫県,
和歌山県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	8.1	57.9	34.0	-25.9	23.9	43.3	32.8	-8.9	9.7	54.7	35.6	-25.9
製造業	7.8	47.4	44.8	-37.0	21.6	39.7	38.8	-17.2	7.8	50.9	41.4	-33.6
非製造業	8.4	67.2	24.4	-16.0	26.0	46.6	27.5	-1.5	11.5	58.0	30.5	-19.0

〔北海道・東北地方〕

北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県,
山形県, 福島県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	8.4	60.3	31.3	-22.9	24.9	41.4	33.7	-8.8	10.4	54.9	34.7	-24.3
製造業	2.9	53.4	43.7	-40.8	18.4	40.8	40.8	-22.4	8.7	48.5	42.7	-34.0
非製造業	11.3	63.9	24.7	-13.4	28.4	41.8	29.9	-1.5	11.3	58.2	30.4	-19.1

〔中国地方〕

鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	9.2	63.2	27.6	-18.4	26.4	42.7	31.0	-4.6	12.1	56.9	31.0	-18.9
製造業	6.1	56.1	37.7	-31.6	16.7	46.5	36.8	-20.1	7.9	55.3	36.8	-28.9
非製造業	12.0	69.6	18.4	-6.4	35.2	39.2	25.6	9.6	16.0	58.4	25.6	-9.6

〔関東・甲信越地方〕

茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県,
東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 山梨県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	8.0	62.0	30.0	-22.0	27.2	44.4	28.4	-1.2	12.7	58.1	29.2	-16.5
製造業	7.6	53.4	39.0	-31.4	25.4	41.7	33.0	-7.6	10.2	53.0	36.7	-26.5
非製造業	8.2	68.1	23.7	-15.5	28.5	46.3	25.3	3.2	14.4	61.7	23.9	-9.5

〔四国地方〕

徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	7.0	58.7	34.3	-27.3	26.7	43.0	30.2	-3.5	8.1	59.3	32.6	-24.5
製造業	5.1	57.7	37.2	-32.1	23.1	42.3	34.6	-11.5	6.4	60.3	33.3	-26.9
非製造業	8.5	59.6	31.9	-23.4	29.8	43.6	26.6	3.2	9.6	58.5	31.9	-22.3

〔東海・北陸地方〕

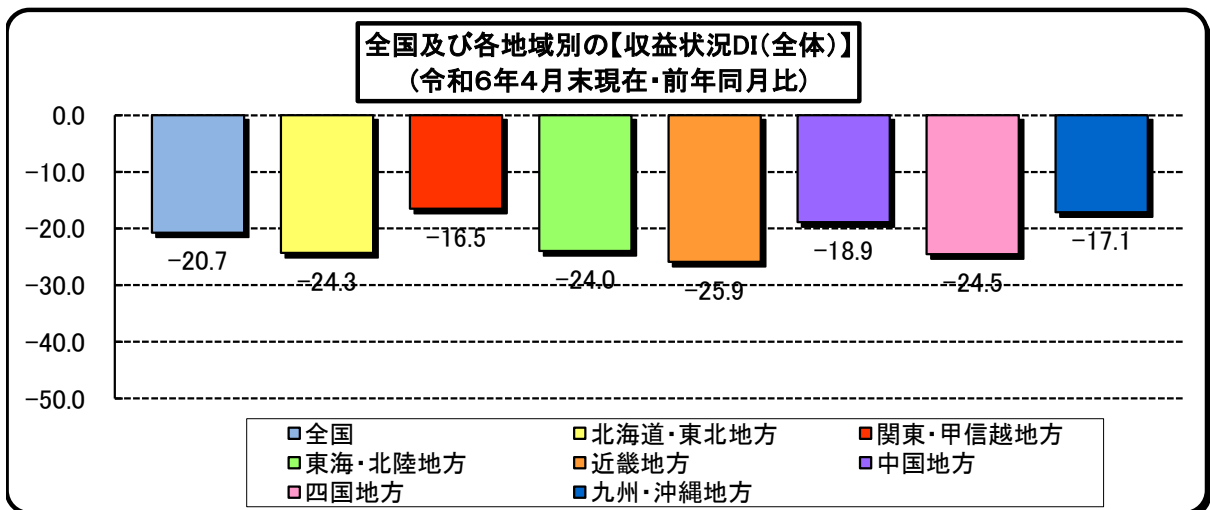
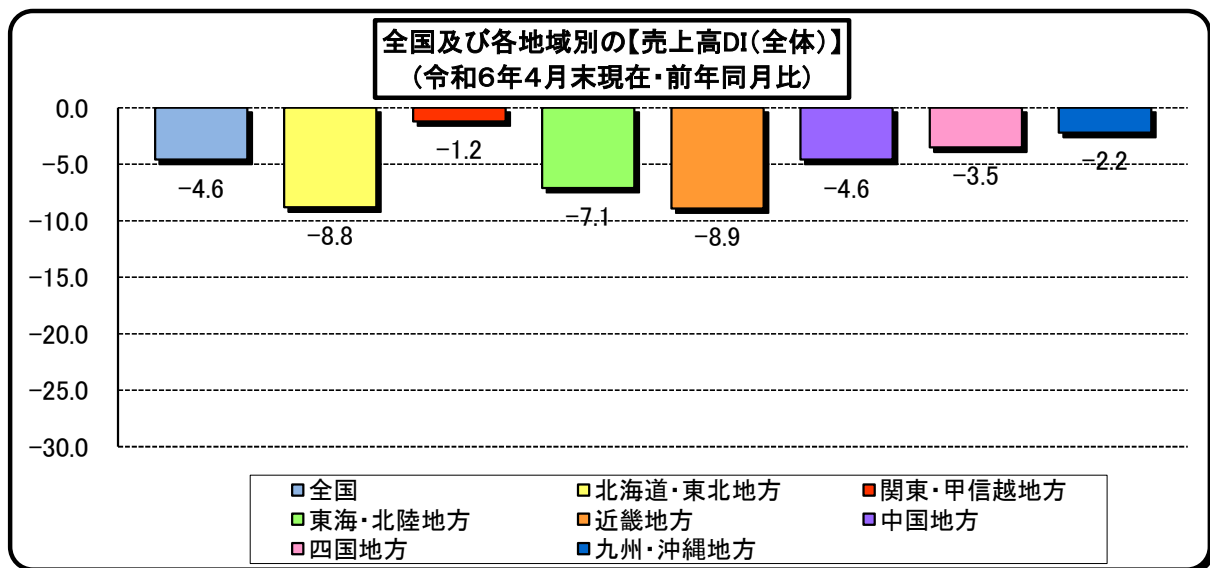
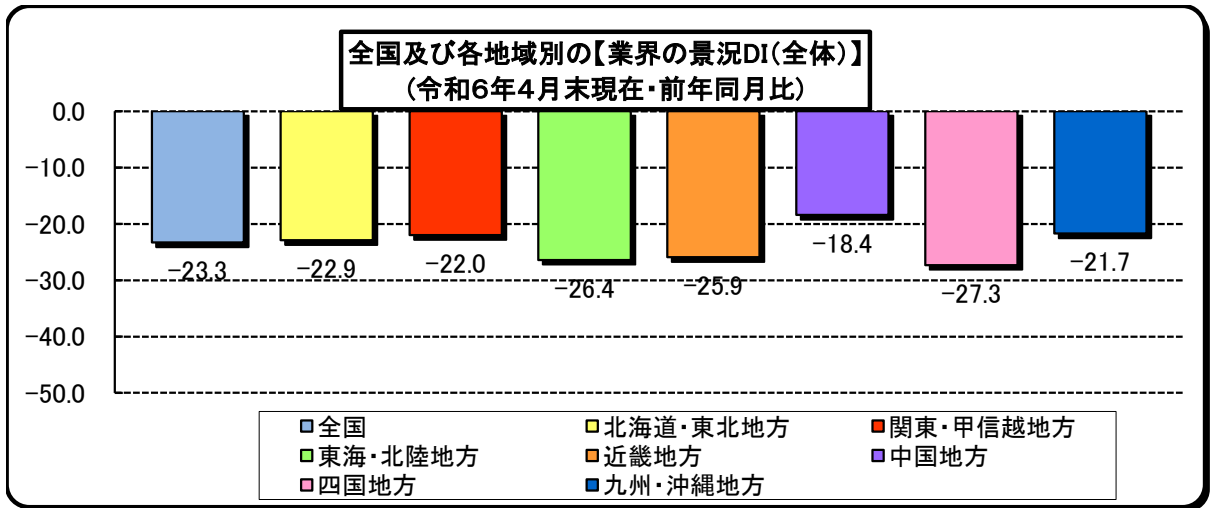
静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県,
石川県, 福井県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	6.3	61.0	32.7	-26.4	23.8	45.3	30.9	-7.1	10.4	55.2	34.4	-24.0
製造業	5.2	55.4	39.4	-34.2	19.7	43.0	37.3	-17.6	8.3	50.3	41.5	-33.2
非製造業	7.4	66.3	26.2	-18.8	27.7	47.5	24.8	2.9	12.4	59.9	27.7	-15.3

〔九州・沖縄地方〕

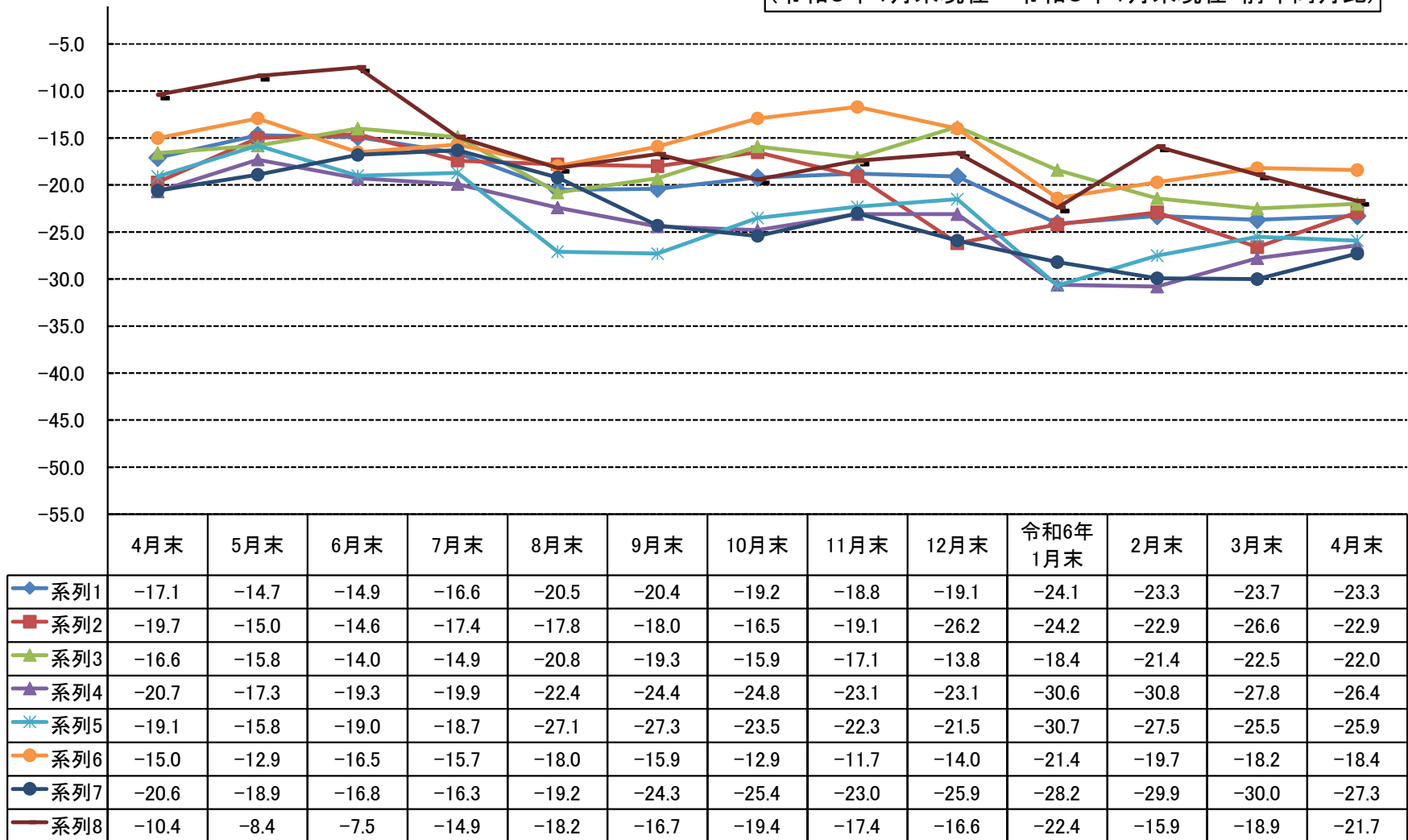
福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県,
宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

項目	業界の景況				売上高				収益状況			
	好転	不変	悪化	DI	増加	不変	減少	DI	好転	不変	悪化	DI
全体	8.0	62.4	29.7	-21.7	27.2	43.4	29.4	-2.2	11.5	59.9	28.6	-17.1
製造業	4.2	59.9	35.9	-31.7	26.1	34.5	39.4	-13.3	9.2	57.7	33.1	-23.9
非製造業	10.4	64.0	25.7	-15.3	27.9	49.1	23.0	4.9	13.1	61.3	25.7	-12.6



<p>[北海道・東北地方]</p> <p>[関東・甲信越地方]</p> <p>[東海・北陸地方]</p> <p>[近畿地方]</p> <p>[中国地方]</p> <p>[四国地方]</p> <p>[九州・沖縄地方]</p>	<p>北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県</p> <p>茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 山梨県</p> <p>静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県, 石川県, 福井県</p> <p>滋賀県, 京都府, 奈良県, 大阪府, 兵庫県, 和歌山県</p> <p>鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県</p> <p>徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県</p> <p>福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県</p>
---	---

全国及び各地域別の【業界の景況DI(全体)の推移】
(令和5年4月末現在～令和6年4月末現在・前年同月比)



- [北海道・東北地方(系列2)] 北海道, 青森県, 岩手県, 宮城県, 秋田県, 山形県, 福島県
- [関東・甲信越地方(系列3)] 茨城県, 栃木県, 群馬県, 埼玉県, 千葉県, 東京都, 神奈川県, 新潟県, 長野県, 山梨県
- [東海・北陸地方(系列4)] 静岡県, 愛知県, 岐阜県, 三重県, 富山県, 石川県, 福井県
- [近畿地方(系列5)] 滋賀県, 京都府, 奈良県, 大阪府, 兵庫県, 和歌山県
- [中国地方(系列6)] 鳥取県, 島根県, 岡山県, 広島県, 山口県
- [四国地方(系列7)] 徳島県, 香川県, 愛媛県, 高知県
- [九州・沖縄地方(系列8)] 福岡県, 佐賀県, 長崎県, 熊本県, 大分県, 宮崎県, 鹿児島県, 沖縄県

※系列1は全国の数値です。

情報連絡員からの報告（要旨）

《製造業》

食料品

1. <青森県 菓子>
物価、賃金上昇により消費者の購買力が落ちている。特に路面店が減少。一方、インバウンド効果により観光土産品が売上を伸ばしている。
2. <宮城県 水産練製品>
値上げにより売上額は増加したが収益はどのメーカーも厳しい。一方でPB商品は値下げの動きがある。賃上げ原資を捻出するためにも値上げを続けなければならないが、今後の値上げは先が読めない状況。
3. <静岡県 パン>
健康意識の高まりに伴い穀物や種子を含んだ多粒穀物パン、無添加の天然酵母を使用したパン、グルテンフリーのパンなど、健康に配慮したパンや、地域の原材料を使用したパンへの需要が増えている。
4. <岐阜県 米菓>
令和5年の猛暑により、主要原材料である「うるち・もち米」、「海苔」の収穫数の減少等の要因で、原材料の高騰が始まりだした。光熱費・人件費の高騰は改善しない中、泣き面に蜂の状況である。
5. <岡山県 酒造>
飲食を伴うお酒関連のイベント等コロナ禍前に戻り活況を呈しているが、需要が従来に戻るほどではない。輸出も中国は厳しい状況になっていることから、中国以外の市場開拓に動く酒造場が増えている。
6. <大分県 菓子>
観光シーズンに入り今年は外国人観光客が特に多く、全体的に県内各地の人の動きが良かったこともあり、土産品の売上もかなり良かった。地域密着の小売店も忙しかったようで、今年は菓子が売れた。

繊維工業

7. <群馬県 外衣・シャツ>
価格転嫁の交渉をしたとしても、人件費に吸収されてしまい利益が減少している。海外向け輸出や新規事業の開拓が必要不可欠と考えている。
8. <福井県 織物工業>
産地全体ではヨーロッパや中国の経済悪化の影響等もあり、全般的に弱含み。全般的に価格転嫁は進んでいるものの、在庫調整局面が続いていることで発注量が減少しており、業界全般で厳しい状況。
9. <京都府 染色整理業>
日本の伝統文化への関心は高まってきており、着物を着たいと思う者は増えてきていることが感じられるが、コト消費への移行が明確な中、伝統工芸品である着物を購買する者はごく限られた状況にある。
10. <和歌山県 繊維工業>
人件費、物価、材料費高騰により、円安にも関わらず海外生産（ベトナム、中国等）が増加している様子。円安で海外生産が高くなる分、国内生産分を値切ってくる傾向があるとの会員企業の声も聞かれる。
11. <香川県 手袋>
皮革・合成皮革手袋については上向く気配もなく弱含みは続いている。繊維製手袋についても価格帯は下がっており皮革ほどではないが悪化している。今後はUVカット商品の動きに注目している。
12. <沖縄県 繊維・同製品>
需要はコロナ禍前と同水準に回復しているものの、縫製技術者が減少していることから供給が思うように進まない。他業種と人員獲得を争う状況下にあり、賃金引き上げのため工賃の見直しを望む声が多い。

木材・木製品

13. <青森県 製材>
木材市場はウッドショック以前の状況となり、外材主体に戻った状態が続いている。そのために県産材（特にスギ材丸太）の在庫を多く抱えており、製品の出荷もままならない状態。
14. <秋田県 家具建具>
4月の売上高は、前年同月比で増加した。インバウンド効果による大都市圏や観光地の需要が出てきており、県外取引先を主としている事業者は売上を伸ばしている。
15. <栃木県 建具>
住宅戸建の売れ行き不振、着工数の減少により、木材合板類の価格が下落。売上の減少と利益額の減少に見舞われている。設備機器、工賃の上昇により住宅価格が上がっている為、住宅取得の動きが鈍い。

16. < 京都府 製材・木製品 >
 大幅な円安の為、木材価格が高止まりしている。ウッドショックによる価格高騰後、やや落ち着きを見せたところから円安が進み、5年前と比較して、ほぼ倍の価格の木材もある。
17. < 徳島県 製材 >
 資材高騰・原油高に加え円安下で価格転嫁をしたいが、住宅販売が不振で、木材の動きが悪く値段を上げにくい。欧州集成材、米松、合板は価格が上がっておらず、特にスギ丸太の価格は弱含み。
18. < 佐賀県 家具 >
 消費に関しては、先月同様あまり振るわない状況である。4月の業者展示会でも来場社数は少なく、市況の冷え込みを反映しているようである。

紙・紙加工品

19. < 北海道 加工紙 >
 輸送の問題では発注から納品までのリードタイム延長を検討する動きが出てきている。このことにより地方のユーザーは益々不利な状況となり、疲弊するのではないかと考えられる。
20. < 愛知県 紙器・段ボール >
 インバウンドを中心に駅に人が戻り小物の土産物の箱がよく出ている。全ての物が値上がりしてコスト高となっているため貼り箱から印刷箱、印刷箱から袋のように資材コスト削減の動きがある。
21. < 岐阜県 機械すき和紙 >
 サプライチェーン間にある在庫が消化されつつある。紙業業界は、業者間の格差はあるものの、前月同様に売上が増加し、収益状況も好転してきた。
22. < 大阪府 古紙収集加工 >
 東南アジアの古紙輸入国は米国からの輸出が滞った為、日本品にシフトしている模様で、欧州品もオリンピック需要が高まり価格も上がっている。円安の影響もあり、輸出価格は上昇基調となっている。
23. < 愛媛県 機械すき和紙 >
 衛生用紙の国内出荷は、前年同月比5.7%増、2カ月連続のプラス。大手メーカーや静岡地区メーカーを中心に、トイレトペーパー値上げ前の駆け込み需要が発生している。
24. < 高知県 手すき和紙 >
 3月は売上が少し持ち直し、このままの状況が4月も継続している。ほんの少しだけ、改善の兆しが見えつつあるが、良い状況になればと願っている。

印刷

25. < 宮城県 印刷・同関連 >
 印刷、情報用紙の国内出荷が前年同期比26カ月連続で減少、紙離れ傾向は引き続き顕著である。官公庁からの印刷物の発注も減少傾向にある。4月に入り引き合いは厳しい状況にある。
26. < 秋田県 印刷 >
 新年度の需要期であり官公需は増加しているが、民間需要に関してはペーパーレスが進み苦労している組合員企業も少なくない。前年から廃業・倒産もあり、小規模事業者の退会も発生している。
27. < 茨城県 総合印刷 >
 電子データ等の増加によって紙への印刷需要の減少が顕著。加えて資材の値上がりなどコスト上昇分を販売価格にフルに転嫁できない印刷業界の「弱い立場」が恒常的に続き、収益、資金繰りを圧迫している。
28. < 栃木県 印刷 >
 官公需は低調、民需は連休前の一定の需要はあるがネット通販印刷の影響で工賃が低く抑えられており、コスト上昇分の価格転嫁は進まない。
29. < 香川県 印刷 >
 年度末までは仕事量もあり忙しくしていたが、4月に入るなり仕事が極端に減り、残業も無く機械を回す。定時内での仕事量も空いてしまっている状況である。
30. < 宮崎県 印刷・同関連 >
 市場では、経済は回復傾向にあるようだが、印刷業界では原材料費の高騰、人件費の値上げ政策、人手不足、需要の回復遅れなど、かなり厳しい状態が続いている。

化学・ゴム

31. < 神奈川県 化学・ゴム >
 組合員から、「急激な円安進行で、原材料価格の高騰が懸念される。」また、「人材確保では、特に新卒が売り手市場で、採用活動に苦戦している。」との情報が寄せられた。
32. < 岐阜県 プラスチック製品 >
 各分野の在庫調整・生産調整は戻りつつあるものの、労務費や原材料価格の値上がりや物流の2024年問題など、対応すべき課題が山積みである。

33. < 京 都 府 プラスチック製品 >

当月は連休の始まり月で、発注元の先行きが非常に不安定で、この連休後の状況が読めない。従業員の就労も時間内に納めており、従業員の収入面では厳しい状況にある。

34. < 奈 良 県 プラスチック製品 >

受注は改善してきているものの、材料費や人件費の高騰が続いており、物価高の影響による買い控えが長期化しているものと考えられる。依然、受注改善の動きが極めて低く収益的に厳しい状況が続いている。

35. < 大 阪 府 セルロイド・プラスチック製品 >

売上高、稼働状況は復調の兆しを見せているが、円安による原材料コストや燃料高による製造コストのアップにより経営状況は悪化しており、そのため資金繰りにも影響が出ている。

36. < 兵 庫 県 ゴム製品 >

操業度・稼働率等は若干ではあるが改善されている。反面、過度な円安によるコスト増大、或いはインフレによる消費者の買い控え等がみられ、業界全体としては景気が上向いたとは言いがたい。

窯業・土石製品

37. < 栃 木 県 陶磁器・同関連製品 >

陶器市の準備で原材料の売上は好調である。5月は陶器市も終わり、一段落する為、売上が下がらないか心配である。他産地の原材料屋の縮小や閉山があり、原料の調達が問題になりそうである。

38. < 滋 賀 県 陶器 >

陶土・釉薬出荷量は前年比約120%となり、春先の陽気で産地を訪れる観光客や買い物客が増加した。大阪・兵庫方面や愛知・岐阜方面からの日帰りの外出先として認知度が向上している。

39. < 兵 庫 県 窯業・土石製品 >

工事の前倒し関係から製品も前倒発注となったことと、大口の特注があったことから売上増加に至った。今後の課題事項として、運送業者の製品搬入についての時間・運賃等の問題を改善する必要がある。

40. < 山 口 県 陶磁器・同関連製品 >

外国人観光客、団体観光客も多く見られるようになった。4月4日、22日、24日にフランス船籍、ポルトガル船籍のクルーズ船が寄港。市内観光を楽しまれ、萩焼も購入いただいた。

41. < 宮 崎 県 窯業・土石製品 >

昨年と同月と比較すると244%と非常によくなっている。この数字はあくまで繰越し物件があることが起因しているため、今後の官公需の発注状況を注視していきたい。

42. < 沖 縄 県 ガラス製品 >

春休み・GWの集客が好調で直営店の売上は前年比20%ほど増加。特にメニューを拡充した体験の売上が好調で、直営店だけだとコロナ以前を上回る売上を記録できた。

鉄鋼・金属

43. < 福 島 県 鉄構 >

前月に続いて 鋼材及び消耗費の高騰が続き、仕事受注がかなり薄くなって来ている。単価も上昇傾向にあり、働き方改革の以前に仕事の受注量の問題で苦しんでいる。

44. < 茨 城 県 鉄鋼 >

売上・設備の操業度とも1割程度減少している。建設・住宅関連部品、機械部品等の加工受注量についても前年より減少傾向である。金属材料はすべてが値上がりしており、貴金属等も高値で推移している。

45. < 千 葉 県 機械部品 >

前月比は売上及び利益ともに減少であったが、前年同月比は売上及び利益ともに増加。完全にコロナ禍前のベースに戻ったが、材料、商材、エネルギー価格が全て大幅なアップとなっている。

46. < 島 根 県 鋳物 >

当県の3月鋳鉄鋳物生産量は前年同月比75%、生産金額も前年同月比63%と大幅な減少となった。一部の自動車メーカーの操業停止等の影響もあったが、客先の生産計画減少の影響等が要因と思われる。

47. < 徳 島 県 鉄鋼 >

業況は概ね横ばいで推移しているが、設備操業度の低下が見受けられる。全国の景気判断は穏やかに回復しつつあると言われていているが、その実感は薄く、先行き不透明感が拭えないところである。

48. < 沖 縄 県 鉄鋼 >

公共、民間工事共に大型物件が順調に推移している。特に民間工事においては、マンション建設が数件同時期に稼働し、個人住宅においても、増加の兆しが見られる。

一般機器

49. < 山 形 県 その他の電気機械器具 >

各製造業において、今後電気料金への国の補助がなくなることへの不安感が大きい。油圧機械等の海外向けの販売価格への転嫁が若干ではあるが進んできている状況にある。

50. < 群馬県 はん用機械器具 >

人手不足や原材料高騰により収益が悪化している。パートナーシップ構築宣言により、大手企業に対する価格転嫁は進んでいるが、中小企業に対してはまだ不十分な様子。また、為替の動向を注視している。

51. < 東京都 食品機械 >

部品の調達遅れが解消し、全体の販売額はコロナ禍前の水準まで回復。円安により輸出高についても昨年後半から増加傾向となっている。今後は、物価高騰や急激な為替変動について注視していく必要がある。

52. < 三重県 一般機器 >

材料価格、仕入価格の上昇分の値上げは認めてもらったが、受注そのものが低調で、先行きの見通しは相変わらず不透明の状況だ。自動車関係の落込みは大きく、設備投資も抑え込まれている。

53. < 大阪府 印刷製本機械 >

業界内でも専門とする分野によって景況感は大きく異なっているが、最も売上高を占める一般印刷が悪いため、輪転機などは全く新規発注が無い状態である。

54. < 愛媛県 鉄工 >

現状、売上については大きな変化は見られない。但し、円安の影響や、燃料油脂費の高止まり、諸物価高騰に対応するための値上げや賃上げ等、経営環境は厳しい状況が続いている。

電気機器

55. < 福島県 電子部品 >

自動車産業に関連する販売の低下で製造業にも影響が見られるなか、GWも大手並みの休業を余儀なくされている。生産の効率化をより進め、新たな受注の機会を増やしていくことも必要。

56. < 埼玉県 電気機器 >

中国の不況が影響し、売上・利益も減少し、雇用人員も減少している。先が読めない状況である。

57. < 山梨県 電気機械器具 >

前年同月と比べ売上▲10%、収益状況は▲15%となった。銅と石油製品の価格が急速に高騰しているため電線類の見積もりを出すことができず、原材料の納期遅延も発生している。

58. < 静岡県 電気機械器具 >

白物家電の3月の業界統計では、出荷金額は3カ月連続のマイナスとなった。大型冷蔵庫及び家庭用エアコンの販売が伸びない状況を受けて生産は前年割れが続いており、組合員は売上減少に苦労している。

59. < 愛知県 配電盤 >

円安で原材料の価格が上昇し、値上げをせざるをえない状況となってきた。既に契約した物件は再契約して値上げすることもできないため赤字になる。現在、原材料の調達ルートを再検討している会員が多い。

60. < 三重県 電気機器 >

3月後半から4月中は受発注の動きが少なく80%程度の稼働率であり、今後上期の動向に期待している。

輸送機器

61. < 愛知県 輸送機器 >

景気動向は落ち込んでいる。車関連業種を中心に売り上げは停滞、減少が大きく、また原材料高の影響がある。生産性向上、利益追求が課題。

62. < 三重県 輸送機器 >

中国との関連が多いところでは、景気悪化の影響が顕著であり、物量減少、収益環境悪化となっている。収益環境が厳しい中、賃上げ回答は大企業中心に満額回答が多く、対応が必要な状況にある。

63. < 兵庫県 輸送用機械器具 >

前年同月比2.8%の増収であった。当月の売上高としては先月より改善されている。部門別には機械関係38.0%、精密機械部門3.0%の減収だが船舶関係は76.0%の大幅な増収であった。

64. < 愛媛県 造船 >

元請け会社は当面の仕事を確保しており、組合員においても仕事量が増加している。一方、マンパワー不足が続いており、これまで外国人材を採用していなかった事業主の受け入れも増加している。

65. < 高知県 船舶製造・修理 >

受注・売上ともに順調で高操業が続いている。取引条件は、手形サイトが60日となったため、代金の受取では好転となるが、支払いでは資金繰りがタイトになるため悪化となっている。

66. < 大分県 造船 >

請負単価が上昇したものの他の企業と比べるとまだまだ差がありすぎる。人手不足。求人を出しても応募がこない。

その他の製造業

67. <福島県 漆器 >
店頭販売は消費税増税前の売上には及ばなかった。ネット通販の動きはやや弱かったが、インバウンドは順調だった。百貨店の動きはない。
68. <長野県 漆器 >
コロナの5類移行に伴い、観光業が活発化してきたことで業務用品が昨年より伸びている。また、個人消費も動きが形として見えはじめるなど、全体的に微増ではあるものの安定的に伸びている状況。
69. <石川県 プラスチック製品 >
製造業は全般的に低調で、各分野の在庫調整局面が続いている。円高による輸出増加は見られていない。原材料や製造コスト、人件費が上昇するなど業界も苦戦している。
70. <奈良県 毛皮革 >
年々、毛皮製品の製造が減少傾向にあるので、オリジナル商品を製造し販売していくことが事業を継続していくうえで重要となってくる。毛皮鞣しについては、仕事がない状態である。
71. <和歌山県 なめし皮・同製品・毛皮 >
4月中旬頃より徐々にではあるが、注文引き合いが出始めた。長く続くよう期待している。コロナ解放から1年でようやく動きが出てきたように感じる。
72. <香川県 漆器 >
県内の景気はインバウンドなどにより少し良くなっているようだが、漆器業界はまだ良くない。材料の高騰など先の見通せない厳しい状況が続いており組合員各社、鋭意努力を求められる。

《非製造業》

卸売業

73. <岩手県 水産物 >
鮮魚の取扱量は前年同月比13%減、冷凍魚の取扱量は前年同月比11%増となり、漁獲量が少なく冷凍魚や塩干加工品の取扱量が増えたことがうかがえる。
74. <神奈川県 再生資源 >
新聞古紙はマレーシアや韓国、インドネシアからの需要が強まっており、供給タイトな状況から価格は上昇傾向にある。特にマレーシアからの引き合いが強く、同国主導で上昇相場が形成されている様子。
75. <石川県 一般機械器具 >
住宅市場は依然として低調ながら非住宅需要の堅調さは続いており、価格高騰分に加え、電線をはじめとする復興需要も出てきており、売上・収益共に前年を上回っている。
76. <広島県 総合 >
原材料高等に伴う仕入価格上昇に対する販売価格転嫁は、卸業種の各取扱商品間で概ね浸透出来ているが、間接コスト上昇（人件費等）分の販売価格転嫁は道半ばの状況にある。
77. <福岡県 紙 >
国内製紙会社の生産状況は良くない状態が続いている。しかし一部の国内メーカーは為替が円安という事もあり、製品を海外に輸出するメーカーも出てきている。
78. <熊本県 各種商品 >
建設関連では、前月に続き県内で倉庫物件の設備投資が増加してきており、資材の売上が前年度よりも上向きとなっている。食品卸でも外食が増加していることから売上に関しては増加した。

小売業

79. <北海道 各種商品 >
観光客は戻ってきているが、平日に一般客が少ない。年度変わりでも出費が多いためか、総購入金額が少ないとの声もある。月末特売日には、価格が安い日にまとめて買い物する地元客が多く来場していた。
80. <埼玉県 小売業 >
高齢化により廃業又は年内で廃業を予定している店舗が増えている。個人の店舗でもキャッシュレス決済を導入する店舗は増加しているが、手数料負担が増え厳しいという声が多くなってきている。
81. <長野県 織物・衣服・身の回り品 >
商品だけでなく梱包資材、販促品なども軒並み値上げとなり、価格の見直しが必要となっている。新規商品の導入も検討するが、以前のような委託販売による取引が難しくなっていると感じる。
82. <富山県 農機具 >
資材等の価格高騰が続いていることや、令和5年産の米の品質低下で農業者の収入が減少したことによる機械購入意欲の低下が響いて、業界はとても厳しい状況である。
83. <広島県 各種商品 >
スーパーマーケットでは、売上の低い曜日にセールを実施することで、安定した客数を確保できるようになり、施設全体にとってもプラス効果が期待される。
84. <大分県 露天商 >
本格的な祭りシーズンとなったが、昨年の客足と違い今年の人出は平年状態に落ち着くも、個人購買額は経済の悪影響からか買い控えが目立つ状態であり、収入面ではあまり期待がもてない状況にある。

商店街

85. <東京都 商店街 >
外国人観光客の入国制限解除以降、多くのインバウンド客が押し寄せている。ほとんどの店舗でその恩恵を受けて景況が好転。更に円安も手伝い売上も増加している。
86. <新潟県 商店街 >
歓送迎会などで飲食店は昨年度を上回る状況になった。商店街全体でも新型コロナウイルス禍前まではいっていないが、大分回復はしている。今後もイベント等も増えていくので集客に期待したい。
87. <長野県 商店街 >
桜の開花が例年に比べ大幅に遅れたが、例年になく暖かく人出も多かったため、週末には夜桜の見物客が商店街まで流れ込み、飲食店は賑わいをみせた。

88. < 奈良県 商店街 >
インバウンドの復活によって、さまざまな方面からの外国人が増え、街の中はにぎわいを取り戻している。しかし、住民自身による消費の活性化という状況には至っていない。
89. < 岡山県 商店街 >
来街者は外国人観光客を含めると、コロナ禍以前と変わらない。インバウンド関係及び飲食店は概ね良好であった。しかし、全体的には更なる諸物価の値上げにより収益的にはまだまだ厳しい状況にある。
90. < 長崎県 商店街 >
気候も安定して市民の外出意欲も向上し、人出は増えている。インバウンドの効果もあり、消費は伸びている感がある。一方で、食品を中心に値上げが止まらず、生活費が逼迫するのではと危惧している。

サービス業

91. < 福島県 クリーニング >
4月に入り冬物のジャンパーやコート等の整理が始まり、気温の上昇と共に忙しさが増している。リネン関係も観光シーズンを迎え増加傾向にある。
92. < 群馬県 旅館 >
円安影響もあり、外国人旅行者が増加。中には宿泊者数がコロナ禍前の水準を超えた旅館もある様子。
93. < 東京都 飲食 >
材料費等の高騰により販売価格を値上げしたが、来店客数、収益状況ともに好転。アルバイトの募集しても応募がなく、困っている店舗が多い。
94. < 静岡県 宿泊 >
組合員旅館の宿泊人員は、前年比109.7%と増加した。グループ客やインバウンドも徐々に増加している。
95. < 岐阜県 旅館 >
4月の春の高山祭も例年通り開催され、インバウンドのお客が増加し、街中が活気づいてきたようである。ゴールデンウィークも満室の施設があるようで、このまま上向きになればよいと思う。
96. < 福井県 ホテル・旅館 >
北陸新幹線開業からGWまでは、北陸応援割もあり好況となった。東京、神奈川等関東方面からのお客が増え、北陸新幹線延伸の効果を感じる一方、中京関西方面からの宿泊客の割合が減少した。

建設業

97. < 岩手県 土木工事 >
複数の大型民間物件へ対応するため、車両のやりくりが一番大変で、2024年問題とも絡みやかに運転手を確保するか、全国共通の悩みである。
98. < 秋田県 管工事 >
4月の景況は、前年同月比で悪化した。資材価格の高騰が続いている中、設計価格が現状価格に追随していない等、価格転嫁が難しい状況にある。
99. < 群馬県 塗装工事 >
仕事量について、落ち込んだ前年とほぼ同様の状況。賃上げを十分に行えない組合員も多く、全体的に労働単価の引き上げの必要性を感じている。
100. < 滋賀県 管工事 >
材料価格、賃金等の高騰により利益を上げていくのが難しい状況が続いている。そのような状況により、住宅の新築価格の高騰、リフォーム価格の高騰等により、施工件数の減少が起こることが懸念される。
101. < 島根県 総合工事 >
民間工事においても少しずつ価格転嫁への理解が進みつつある。また、物流問題に係る影響について、資材調達の際の遅延など特段の支障は出ていない模様。
102. < 愛媛県 電気工事 >
銅ベースの価格上昇が止まらない。電線・ケーブルなど品薄状況に加えて、価格が高騰している。他の電設資材も値上げ傾向にあり、難しい状況が続いている。

運輸業

103. < 山梨県 道路貨物 >
時間外労働の上限規制が本格的にスタートしたが、ドライバー不足が深刻化しており、運行体制の維持すら困難な状況であるが、運送業界だけで解決できる問題ではない。
104. < 鳥取県 貨物 >
4月の売上高は、前月比、前年同月比ともに減少しており厳しい状況が続いている。低調であったと荷動きに兆しが見られたものの、長引く燃料価格の高騰は依然として輸送コストの増加をもたらしている。

105. < 岡山県 バス >
観光バスの集客人員は前年同月比116%となった。観光需要は前月に続いて旺盛で、人流回復により前年より良化している。高速バスは前年同月比14%と対前年比では大幅なプラスを継続している。
106. < 山口県 一般貨物自動車 >
物流に関しては、荷物運送、倉庫保管量共に増加している。特に建築・工業製品関係が増加している模様。依然として庸車の確保は難しく、車両が不足している状況が続いている。
107. < 福岡県 道路貨物 >
荷動きはあるものの運賃が合わず車両手配が出来ない場合があった。また、運賃は上がっているものの交渉中の取引先が多い。4月度は売上・利益とも前年割れとなった。
108. < 鹿児島県 運輸・倉庫 >
物量は昨年と比べ増えたが幹線車両が少なく、空車で荷物を取りに行く事もあった。長距離運行はフェリー使用等で働き方改革への取り組みを行っているが費用負担が増している。

その他の非製造業

109. < 千葉県 輸出入 >
空港店舗においては、先月後半の好調さを保ったまま、結果として前月比110%を記録した。円安にあと押しされたインバウンド客のお陰で好調さを維持できている状況である。
110. < 神奈川県 不動産 >
賃貸繁忙期も一段落し、例年ながら売上は一度落ち込む時期であるが、4月はリフォーム等の受注が多少伸びたため売上減少は最小限に抑えられた。しかしながら、住宅設備等の原価高騰で利益率は高くない。
111. < 奈良県 質屋 >
金価格は過去最高値を更新しているが、取引件数は低調である。ブランドバッグは国内需要が若干回復傾向にあるが、高級時計とダイヤモンドの相場は低調。
112. < 兵庫県 物品賃貸 >
4月からの値上げについては、昨年10月からの人件費の上昇分を簡単に吸収しにくいところがあり、収益増加というよりは悪化していた収益を幾分取り戻せた、というイメージに近いと思われる。
113. < 岡山県 信用組合 >
4月については、全業種業況は横ばいが続いている。人材に課題をかかえている企業が多いことから、信組業界を通じての新現役の紹介等本業支援に力を入れていく。
114. < 広島県 不動産 >
不動産市場については、旧市内やアストラムライン沿線の平地の利便性の良い地域の住宅地が高騰しており、安価な高台の住宅団地の需要が増加しているため、地価も上昇傾向になってきている。